

**Cosminexus V11 アプリケーションサーバ &
BPM/ESB 基盤 用語解説**

解説書

3021-3-J99-80

前書き

■ 対象製品

マニュアル「アプリケーションサーバ & BPM/ESB 基盤 概説」の前書きの対象製品の説明を参照してください。

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

AIX は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

Apache(R), Apache Kafka(R), および Kafka(R)は、Apache Software Foundation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Eclipse は、Eclipse Foundation, Inc.の商標です。

IBM は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft, Windows, Windows Server は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

Oracle(R), Java, MySQL 及び NetSuite は、Oracle, その子会社及び関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

UNIX は、The Open Group の登録商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

Eclipse は、開発ツールプロバイダのオープンコミュニティである Eclipse Foundation, Inc.により構築された開発ツール統合のためのオープンプラットフォームです。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

■ 発行

2026 年 1 月 3021-3-J99-80

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2020, 2026, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容(3021-3-J99-80) uCosminexus Application Server 11-70, uCosminexus Client 11-70, uCosminexus Developer 11-70, uCosminexus Service Architect 11-70, uCosminexus Service Platform 11-70

追加・変更内容	変更箇所
記載内容は変更なし（リンク情報だけを変更した）。	-

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルをお読みになる際の前提情報については、マニュアル「アプリケーションサーバ & BPM/ESB 基盤 概説」のはじめにの説明を参照してください。

目次

前書き 2

変更内容 3

はじめに 4

1 用語解説 6

1.1 アプリケーションサーバおよび BPM/ESB 基盤の用語解説 7

索引 82

1

用語解説

1.1 アプリケーションサーバおよび BPM/ESB 基盤の用語解説

ここでは、アプリケーションサーバおよび BPM/ESB 基盤のマニュアルに記載されている用語について解説しています。

(数字)

1:1 系切り替えシステム

実行系のアプリケーションサーバと待機系のアプリケーションサーバが 1:1 で対応しているシステムです。実行系のアプリケーションサーバに障害が発生すると、待機系のアプリケーションサーバで処理を引き継ぎます。

(英字)

Application Development Plug-in

アプリケーションの開発およびテスト時に使用するプラグインです。

Application Server

アプリケーションサーバの実行環境を構築する基盤製品です。

Batch Job Execution Server

オープン環境で基幹系のバッチ業務を実行・運用するためのバッチジョブ実行基盤を提供する製品です。JP1/AJS とあわせて使用します。

Bean-Managed Persistence

Enterprise Bean のビジネスメソッド内でデータの永続化を管理するモデルです。

Bean-Managed Transaction

Enterprise Bean でトランザクションを管理するモデルです。Session Bean および Message-driven Bean が対象になります。Entity Bean は対象外です。

BJEX

Batch Job Execution Server の略称です。説明については、[「Batch Job Execution Server」](#)を参照してください。

BMP

Bean-Managed Persistence の略称です。説明については、[「Bean-Managed Persistence」](#)を参照してください。

BMP Entity Bean

永続化に関する処理を、Bean 自身が行うという意味です。リソースへのアクセスコードは、すべてアプリケーション開発者が記述する必要があります。実装は CMP よりも手間が掛かりますが、CMP より適用範囲が広く自由度も高くなります。

BMT

Bean-Managed Transaction の略称です。説明については、[「Bean-Managed Transaction」](#)を参照してください。

BPEL

Business Process Execution Language の略称です。説明については、[「Business Process Execution Language」](#)を参照してください。

BPMN

Business Process Modeling Notation の略称です。説明については、[「Business Process Modeling Notation」](#)を参照してください。

Business Process Execution Language

XML をベースにしたワークフロー記述言語です。サービスプラットフォームでは、GUI を使用してこの形式でビジネスプロセスを定義できます。

Business Process Modeling Notation

業務手順をわかりやすく図示して可視化するための表記ルールを定めたものです。ビジネスプロセス・モデリング表記法ともいいます。

CA

Certificate Authority の略称です。説明については、[「Certificate Authority」](#)を参照してください。

Certificate Authority

認証局と呼ばれる、SSL を使用するための証明書を発行する機関です。

ほかのエンティティのために有効な証明書を発行する、信頼のおけるエンティティです。次に示す種類があります。

- ルート CA
上位の CA による認証を受けないで、自分の正当性を自ら証明します。
- 中間 CA
自分の正当性を証明するために、上位の CA による認証を受けています。

CJMSP ブローカー

CJMS プロバイダで使用するプロセスです。

メッセージの送信先を管理します。

CJMSP リソースアダプタ

CJMS プロバイダで使用するリソースアダプタです。

J2EE サーバから CJMSP ブローカーに接続するために使用します。Connector 1.5 仕様に準拠しています。

Client

EJB クライアント環境を構築するための製品です。

CMP

Container-Managed Persistence の略称です。説明については、[「Container-Managed Persistence」](#)を参照してください。

CMP Entity Bean

CMP Entity Bean の CMP とは、Container-Managed Persistence の略で、永続化に関する処理を、EJB コンテナが行うという意味です。CMP の場合、開発者はリソース（データベースなど）へのアクセスのためのコードを書く必要がなく、リソースとのやり取りはすべて EJB コンテナが行います。

CMT

Container-Managed Transaction の略称です。説明については、[「Container-Managed Transaction」](#)を参照してください。

Component Container

サーバサイドの業務処理プログラム（ビジネスロジック）をコンポーネントとして実行するための構成ソフトウェアです。また、アプリケーションサーバの運用管理をするための Management Server、統合ユーザ管理、snapshot ログ収集などの機能も提供しています。

Component Container 管理者

スーパーユーザ以外の、J2EE サーバやバッチサーバのセットアップ、J2EE サーバやバッチサーバの起動・停止などを実施できるユーザを指します。Component Container 管理者は UNIX の場合に設定できます。

Component Transaction Monitor

クライアントからのリクエストのスケジューリングを実現するための構成ソフトウェアです。

Container-Managed Persistence

EJB コンテナがデータの永続化を管理するモデルです。

Container-Managed Transaction

EJB コンテナがトランザクションを管理するモデルです。Session Bean, Entity Bean および Message-driven Bean が対象になります。

Cookie スイッチング機能

負荷分散機で提供しているサーバスイッチング機能の一つです。Cookie スイッチング機能を使用すると、クライアントからのリクエストパケット内の Cookie 情報に基づいて、同じサーバにセッションをリダイレクトします。

CORBA ネーミングサービス

CORBA の仕様に準拠した、リモートオブジェクトの格納場所を管理するためのネーミングサービスです。構成ソフトウェアである TPBroker によって提供される機能です。

cosminexus.xml

アプリケーションサーバ独自の情報を定義するための属性ファイルです。

CTM

Component Transaction Monitor の略称です。説明については、[「Component Transaction Monitor」](#)を参照してください。

CTM デーモン

クライアントからのリクエストを制御するスケジュールキューを管理するプロセスです。リクエストのスケジューリングを実現する、スケジューラとして機能します。

Management Server を利用している場合、CTM デーモンは論理サーバとして扱えます。

CTM ドメイン

複数の CTM デーモンで構成される、情報共有と負荷分散の対象になる範囲です。CTM デーモンは CTM ドメイン内で、それぞれに登録された業務処理プログラムの情報やスケジュールキューの負荷情報を交換してリクエストを振り分けます。

CTM ドメインマネージャ

CTM ドメインを管理するプロセスです。ホスト内の CTM デーモンの情報を、CTM ドメイン内のほかの CTM ドメインマネージャに配布します。

Management Server を利用している場合、CTM ドメインマネージャは論理サーバとして扱えます。

CTM レギュレータ

EJB クライアントから CTM デーモンに集中するリクエストを、分散集約するためのプロセスです。TPBroker クライアント (CORBA クライアント) から J2EE サーバ内で動作している EJB アプリケーションを直接呼び出しできるゲートウェイ機能も提供します。

DB Connector

データベースに接続するためのリソースアダプタです。

DB アダプタ

データベースの操作をサービス部品として利用する場合に、操作するデータベースや実行する SQL を定義した HCSC コンポーネントです。

DB キュー

データベースを介してシステム間で連携する、TP1/EE (TP1/Server Base Enterprise Option) の機能です。DB キュー機能を使用すると、データベースをキューとして、TP1/EE と J2EE との間で、非同期型のメッセージ送受信ができます。

DD

Deployment Descriptor の略称です。説明については、[「Deployment Descriptor」](#) を参照してください。

Deployment Descriptor

アプリケーションを運用環境に配置するときの定義情報を記述したものです。

Detached 署名

署名の対象となるデータと署名要素が分離した形式の XML 署名です。Detached 署名は、XML 文書以外のデータにも使用できます。Detached 署名では、署名の対象となるデータを URI によって指定できるので、外部のネットワークを参照したり、ローカルファイルを参照したりできます。

Developer

アプリケーションサーバの開発環境を構築する基盤製品です。

DII

Dynamic Invocation Interface の略称です。説明については、[「Dynamic Invocation Interface」](#) を参照してください。

DI ターゲット

Dependency Injection 機能を使用して参照を注入する対象のことです。DI ターゲット名と名前が一致するフィールド、または DI ターゲット名をプロパティとして持つ setter メソッドに対して、Dependency Injection が実行されます。

document/literal

スキーマで定義された形式の XML ドキュメントを SOAP ボディの子要素としてそのまま送受信するインタフェース形態です。

Document Object Model

DOM パーサによって解析された XML 文書の内容を記述したもので、メモリに常駐するツリー形式のデータ構造となっています。このツリー構造を DOM ツリーと呼びます。

Document Type Definition

XML のスキーマの一つで、XML 文書で使用するタグの属性や階層構造や出現順序などを定義したものです。XML 文書はこの DTD で定義した文法に従って記述します。

DOM

Document Object Model の略称です。説明については、[\[Document Object Model\]](#) を参照してください。

DOM API

DOM パーサによって生成された DOM にアクセスするための API を DOM API と呼びます。XML 文書内のデータ構造に基づいたデータの処理ができます。

DOM ツリー

XML 文書の構造をツリー形式で表したものです。DOM ツリーは DOM パーサを使って解析すると生成されます。

DTD

Document Type Definition の略称です。説明については、[\[Document Type Definition\]](#) を参照してください。

Dynamic Invocation Interface

サービスインタフェースおよびスタブを使用しないで、JAX-RPC で定義された標準 API で SOAP サービスを呼び出す機能です。スタブを使用しないため、呼び出し先は特定のサービスに固定されることなく、動的に呼び出し先を変更できます。

EADs

Elastic Application Data store for Application Server の略称です。EADs は、key と value というシンプルな構造で、データをメモリ上で管理する製品です。EADs では、複数サーバ (EADs サーバ) をクラスタとして管理し、クラスタ内の個々のサーバのメモリ領域を一つのメモリ領域として使用するため大容量のデータを処理でき、クライアントから個々のサーバを意識しないでデータにアクセスできます。

EADs クライアント

Elastic Application Data store Client for Application Server の略称です。EADs サーバにアクセスして、EADs の機能を実行するためのクライアント用ソフトウェアです。

EADs サーバ

データを EADs で管理するためのサーバプロセスです。

EAR ファイル

Enterprise ARchive ファイルの略称です。J2EE アプリケーションを構成する複数のファイル (EJB-JAR ファイル, WAR ファイル, および DD) を EAR ファイル形式でパッケージ化したものです。

なお、サービスプラットフォームでは、HCSC コンポーネントをパッケージングして、EAR ファイルを作成します。

Eclipse

Eclipse Foundation が提供するオープンソースの統合開発環境です。ソースコードの編集支援機能やデバッグ機能など、アプリケーションの開発効率を向上させる各種機能を備えています。

サービスプラットフォームでは、SOA を適用したシステムの開発に必要な機能をプラグインとして提供しています。

Eclipse Web Tools Platform

Java アプリケーションの開発環境です。

EIS

データベースやトランザクションサーバなど、企業内に構築されているバックエンドシステムです。

EJB-JAR ファイル

Enterprise Bean, DDなどをJARファイル形式に圧縮したものです。

EJB クライアント

J2EE サーバ上で開始されている Enterprise Bean を呼び出すクライアントプログラムです。次の3種類があります。

- EJB クライアントアプリケーション
- サーブレットまたは JSP などの Web アプリケーション
- ほかの Enterprise Bean

EJB クライアントアプリケーション

Enterprise Bean を呼び出す Java アプリケーションです。

EJB コンテナ

Enterprise Bean を制御する実行環境です。また、通信、トランザクション管理などのシステムレベルのサービスも提供します。Enterprise Bean の実体は、EJB コンテナの中で実行されます。

EJB タイマ

EJB コンテナの Timer Service の機能を利用して、タイムアウト時間を管理するタイマです。指定された時刻または間隔で、タイムアウトメソッドをコールバックし、イベントを実行します。

Enterprise Bean

ビジネスロジックを EJB アーキテクチャに従って作成したものです。業務処理プログラムに該当します。

Entity Bean

永続化されたデータそのものを表す Bean です。Entity Bean は、さらに CMP Entity Bean と BMP Entity Bean に分類されます。

EntityManager

データベースに対してエンティティを登録したり、削除したりするためのインタフェースを持つオブジェクトです。EntityManager は JPA プロバイダで提供しています。

Enveloped 署名

署名の対象となる XML 文書の中に、署名要素が生成される形式の XML 署名です。Enveloped 署名では、署名要素そのものは、署名の対象にはなりません。

Enveloping 署名

署名要素の中に、署名の対象となる XML 文書が格納される形式の XML 署名です。Enveloping 署名では、署名要素の中に格納された XML 文書から、署名に必要な値が生成されます。

Explicit ヒープ

明示管理ヒープ機能で使用するメモリ空間です。Java ヒープ外にあるため、FullGC の対象になりません。

Extensible Stylesheet Language

XML 用のスタイルシートのことで、表示方法を記述するだけでなく、データのコピー、分岐、抽出などのデータ処理を記述できます。

FIFO

メッセージをグルーピングするための単位です。メッセージは FIFO 単位で管理されます。

FIFO は、次の 3 種類に大きく分けられます。

1. 登録・取り出し用 FIFO

アプリケーションからの登録または取り出し対象となるキューにあるメッセージの単位です。

2. 送信用 FIFO

通信層で、他システムに対してメッセージを送信するためのメッセージの単位です。

3. 受信用 FIFO

通信層で、他システムからのメッセージを受信するためのメッセージの単位です。

2と3を総称して「通信用 FIFO」と呼ぶ場合があります。また、通信用 FIFO は、グループと同じ意味です。

FTP アダプタ

サービスプラットフォームと FTP サーバとの間でファイルの送受信をするために利用するアダプタです。

FTP インバウンドアダプタ

FTP 連携で使用するリソースアダプタです。Connector 1.5 仕様に準拠しています。

FTP 受付

FTP インバウンドアダプタを経由して FTP クライアントからの実行要求を受け付ける機能（インタフェース）です。

ファイル操作アダプタや FTP アダプタと連携することで、サービスプラットフォーム上で FTP クライアントと FTP サーバの間のファイル転送ができるようになります。

FTP クライアント

FTP を使用してファイルの送受信を行うクライアント用ソフトウェアです。

FTP サーバ

FTP クライアントからの要求によってファイルを送受信するサーバ用ソフトウェアです。

FTP 連携

サービスプラットフォーム上で FTP クライアントと FTP サーバの間のファイル転送を実現するための機能です。

GC 制御機能

リソースの排他中に GC の実行を待ち状態にする機能です。リソースの排他中に FullGC が発生し、処理が長時間中断されるのを回避できます。GC 制御機能は、バッチサーバの場合に使用できます。

grammar オブジェクト

スキーマ文書を解析したときに取得できる、スキーマ文法定義を表す内部のオブジェクトです。

gRPC アダプタ

サービスプラットフォームの実行環境から、gRPC で作成されたサービスへメッセージを送信する場合に利用するアダプタです。

gRPC インバウンドアダプタ

gRPC インバウンド連携機能で使用するリソースアダプタです。Connector 1.5 仕様に準拠しています。

gRPC インバウンド連携

gRPC クライアントからの実行要求を取得し、サービスプラットフォーム上の gRPC 受付を呼び出す機能です。

gRPC 受付

gRPC インバウンドアダプタを経由して、gRPC クライアントからの実行要求を受け付ける機能（インタフェース）です。

HA モニタ

クラスタソフトウェアの一つです。

システムを監視し、障害発生時などにシステムの切り替えを実行するプログラムです。HA モニタと連携することで、アプリケーションサーバで構築したシステムの信頼性や稼働率を向上できます。AIX または Linux を使用しているときに連携できます。

HA モニタと連携することで、1:1 系切り替えシステム、相互系切り替えシステム、N:1 リカバリシステム、およびホスト単位管理モデルを対象とした系切り替えシステムが実現できます。

HCSC

Service Coordinator の略称です。説明については、「[Service Coordinator](#)」を参照してください。

HCSC-Business Process

ビジネスプロセス基盤を意味します。説明については、「[ビジネスプロセス基盤](#)」を参照してください。

HCSC-Data Transform

データ変換基盤を意味します。説明については、「[データ変換基盤](#)」を参照してください。

HCSC-Manager

サービスプラットフォームの運用環境で利用する運用管理機能です。

HCSC サーバのセットアップ機能、HCSC コンポーネントの配備機能、プロセスインスタンスの実行履歴管理機能などが含まれます。

HCSC-Manager コマンド共通定義ファイル

運用環境で使用するコマンドの必須項目の省略値を定義するファイル (csccmd.properties) です。J2SE のプロパティ形式のファイルとして作成します。

このファイルに省略値を定義しておくことで、コマンド入力時に該当するオプションの入力を省略できます。

HCSC-Manager 定義ファイル

運用環境のカスタマイズに必要な情報を定義するファイル (cscmng.properties) です。J2SE のプロパティ形式のファイルとして作成します。

リポジトリのインポート先となるディレクトリや、ログファイルの大きさ・面数などを定義できます。

HCSC-Messaging

メッセージング基盤を意味します。説明については、「[メッセージング基盤](#)」を参照してください。

HCSCTE

サービスプラットフォームの開発環境で利用する開発支援機能です。HCSCTE で提供される機能は、Eclipse にプラグインして利用します。

アダプタやビジネスプロセスの作成・定義機能などが含まれます。

HCSC コンポーネント

開発環境で作成するサービスアダプタ、汎用カスタムアダプタ、ビジネスプロセス、およびユーザ定義受付の総称です。

HCSC コンポーネントの検証

定義したアダプタ、ビジネスプロセス、データ変換定義の内容が妥当かどうかを検証する機能です。必要な定義があるか、また定義の関係が正しいかを、必要に応じて任意のタイミングで検証できます。

HCSC サーバ

実行環境でサービス部品の実行を管理するサーバ機能です。メッセージング基盤、ビジネスプロセス基盤、データ変換基盤など、実行環境に必要な機能が含まれます。また、標準受付、ユーザ定義受付などのリクエスト受付機能や各種アダプタ機能も含まれます。

HCSC サーバ構成定義ファイル

HCSC サーバの構成を定義するファイル (cscsvsetup.xml) です。XML 形式のファイルとして作成します。

HCSC サーバ、クラスタ、Manager などの情報を定義できます。

HCSC サーバセットアップ定義ファイル

HCSC サーバのセットアップに必要な情報を定義するファイル (cscsvsetup.properties) です。J2SE のプロパティ形式のファイルとして作成します。

HCSC サーバに設定するクラスタ名や使用できる標準受付の種類などを定義できます。

HCSC サーバランタイム定義ファイル

HCSC サーバの起動時に必要なランタイム情報を定義するファイル (cscsvconfig.properties) です。J2SE のプロパティ形式のファイルとして作成します。

実行履歴を採取するかどうかや、トレースファイルのレベル・出力先などを定義できます。

HTTP アダプタ

REST スタイルで公開されている Web サービス (RESTful Web サービス) を呼び出すためのアダプタです。サービスプラットフォームとサービス部品との間でファイルを送受信することもできます。

HTTP 受付と連携することで、クライアントから送信したファイルを Web サーバに転送することもできます。

HTTP 受付

HTTP クライアントからの実行要求を受け付ける機能 (インタフェース) です。

HTTP 受付を使用することで、Web フロントシステムを経由しないで Web ブラウザとサービス部品の間でテキストデータやマルチメディアデータを送受信できます。

HTTP セッション

javax.servlet.http.HttpServletRequest クラスの getSession メソッドで取得される HttpSession オブジェクトです。「HTTP セッションに格納するオブジェクト」に加え、そのほかに HTTP セッションがメンバとして参照するオブジェクトを含む、HTTP セッション全体を指します。

HTTP セッション管理用オブジェクト

Web コンテナの内部で使用され、HTTP セッションを管理するオブジェクトです。

HTTP セッションに格納するオブジェクト

javax.servlet.http.HttpSession クラスの setAttribute メソッドで HTTP セッションへ格納されるユーザオブジェクトです。

HTTP セッションの属性ともいいます。

HTTP セッションに関するオブジェクト

「HTTP セッション管理用オブジェクト」と「HTTP セッション」とをまとめて表現した用語です。

HTTP レスポンス圧縮機能

サーブレット、JSP、および静的コンテンツへの HTTP リクエストに対する HTTP レスポンスを、サーブレットフィルタによって gzip 形式に圧縮する機能です。この機能を使用することで、Web コンテナと Web クライアント（Web ブラウザなど）間の通信に掛かる時間を削減し、システムの応答時間を短縮できます。

Hyper-V

ハイパーバイザの種類の一つです。Microsoft が提供している、サーバ仮想化を実現するための機能の名称です。64 ビット仮想化技術による高いパフォーマンスと可用性、信頼性を実現します。

IANA

Internet Assigned Numbers Authority の略称です。説明については、[「Internet Assigned Numbers Authority」](#) を参照してください。

IDE

Integrated Development Environment の略称です。説明については、[「Integrated Development Environment」](#) を参照してください。

Inbound

Connector 1.5 仕様で定められた J2EE サーバとリソースアダプタ間の通信モデルの一つです。リソースアダプタから J2EE サーバにアクセスする通信モデルです。

Integrated Development Environment

GUI を使用して Java プログラムを実装したり、WAR ファイルなどを作成したりできる統合開発環境です。アプリケーションサーバ、および BPM/ESB 基盤では、Eclipse に対応しています。

Internet Assigned Numbers Authority

インターネットの名前または番号の登録業務を行う組織です。

J2EE アプリケーション

JSP、サーブレット、EnterpriseBean などで構成されるアプリケーションです。アプリケーションサーバで扱う J2EE アプリケーションの形式には、EAR ファイル形式でパッケージ化されたアーカイブ形式のアプリケーションと、アーカイブ化しない展開ディレクトリ形式のアプリケーションがあります。EAR ファイル形式でパッケージ化されたアプリケーションの場合、複数の EJB-JAR ファイル、複数の WAR ファイル、および一つの DD から構成されます。

J2EE アプリケーション実行時間の監視機能

EJB および Web アプリケーションのリクエスト実行時間を監視する機能です。実行時間監視中に障害を検知すると、メソッドタイムアウト機能およびメソッドキャンセル機能が動作します。

J2EE アプリケーションの強制停止

J2EE アプリケーションの停止での強制停止とは、J2EE アプリケーションで処理中のリクエストがある場合でも、強制的に処理を中止する方法です。

J2EE アプリケーションの通常停止

J2EE アプリケーションの停止での通常停止とは、Web アプリケーションや EJB の停止処理を順番に実施して、J2EE アプリケーションを安全に停止させる方法です。

J2EE コンテナ

J2EE アプリケーションを実行するためのサーバ基盤です。

J2EE コンポーネントへ各種 API を提供する、Web コンテナ、EJB コンテナから構成されます。

J2EE コンポーネント

サーブレット、JSP、Enterprise Bean などのユーザアプリケーションプログラムのことです。

J2EE サーバ

J2EE コンテナを生成、実行する環境です。

アプリケーションサーバ、および BPM/ESB 基盤では、J2EE サーバとして Component Container を使用します。

J2EE サービス

J2EE コンテナの部品機能として利用されます。J2EE コンポーネントに JNDI、JDBC、JTA、RMI-IIOP および JavaMail の API を提供します。

J2EE リソース

サーバから利用できるリソースです。J2EE サーバの場合、データベース、OpenTP1、SMTP サーバなどを利用できます。また、バッチサーバの場合、データベースを利用できます。

J2EE リソースアダプタ

J2EE サーバに共有スタンドアロンモジュールとして配備したリソースアダプタのことです。

jaas.conf

JAAS のコンフィグレーションファイルを意味します。説明については、「[JAAS のコンフィグレーションファイル](#)」を参照してください。

JAAS のコンフィグレーションファイル

ユーザ認証ライブラリおよびシングルサインオンライブラリの機能を使用するために必要な JAAS 認証用の設定ファイルです。

JAAS ログインモジュール

JAAS に準拠した統合ユーザ管理のユーザ認証に使用する、JAAS API の LoginModule インタフェースの実装クラスです。

JAR ファイル

Java ARchive ファイルの略称です。Java プログラムの実行に必要なクラスファイルやデータファイルを一つにまとめるためのアーカイブです。

Java Batch

JSR-352 で定義される Batch Applications for the Java Platform の略称です。

JavaBeans

Java 言語を使用して開発され、部品化されたプログラムを組み合わせてアプリケーションを構築するための手法です。

Java 雛形ファイル

カスタムファンクションから呼び出す変換ファンクションの雛形ファイルです。パッケージ、クラス、およびメソッド（引数を含む）の構成が記載されています。

Java ロギング API

J2SE で提供されているコアロギング機能のクラスおよびインタフェースです。アプリケーションサーバでは、Java ロギング API を使用してユーザログをトレース共通ライブラリ形式で出力する機能を提供しています。

JAX-RS エンジン

JAX-RS 仕様に対応した、RESTful Web サービス（Web リソース）の通信基盤となるエンジンです。Web リソース側に配置され、HTTP プロトコル経由でクライアントから到着するメッセージを受け取り、処理を実行します。JAX-RS エンジンでは、メソッドを呼び出す際、リソースクラスに含まれるアノテーションに基づき、必要なインジェクションを行います。

JAX-RS 機能

JAX-RS 仕様に対応した、RESTful Web サービス（Web リソース）を実行するための機能です。Web リソース実行用の通信基盤を提供します。

JAX-WS API

JAX-WS 仕様で提供されている API です。ハンドラフレームワークなどの機能を追加する場合に使用します。

JAX-WS エンジン

JAX-WS 仕様に対応した、アプリケーションサーバが提供する Web サービスの通信基盤です。

Web サービスクライアント側および Web サービス側に配置され、送受信された SOAP メッセージのマーシャル／アンマーシャルをする役割を果たします。

JAX-WS 機能

JAX-WS 仕様に対応した Web サービスを開発、実行するための機能です。SOAP Web サービス開発用のコマンドラインインタフェース、および SOAP Web サービス実行用の通信基盤を提供します。

JAXB マッピングアノテーション

スキーマジェネレータを使用してスキーマ文書を生成するとき、入力となる Java ソースコード中に記述するアノテーションです。デフォルトのマッピングを変更する場合に使用します。

JCA コンテナ

J2EE サーバやバッチサーバと、EIS を接続するためのシステムレベルのプラグイン機能を提供するコンテナです。

JDBC コネクション

Java で実装するアプリケーションから DB にアクセスするためのコネクションです。

Reliable Messaging は、DB Connector を介して JDBC コネクションを利用し、DB にアクセスします。

JMS インタフェース

Java で実装したアプリケーション間で、キューを介してメッセージを送受信するための API です。Java Message Service Specification によって仕様が規定されます。

Reliable Messaging が提供する JMS インタフェースは、JMS Version 1.0.2b の PTP（ポイントツーポイント）モデルに基づいています。

JMS クライアント

JMS インタフェースを使用するメッセージングシステムの構成要素の一つです。Java 言語によって記述されて、メッセージを送受信するプログラムです。

Reliable Messaging を使用する場合、アプリケーションのことです。

JMS プロバイダ

JMS インタフェースを使用するメッセージングシステムの構成要素の一つです。メッセージングシステムに必要な管理機能、制御機能および JMS インタフェースを実装する製品です。

Reliable Messaging を使用する場合、Reliable Messaging のことです。

JNDI 名前空間

JNDI によってアクセスする名前情報が管理されている名前空間です。Application Server では、J2EE アプリケーションをデプロイした時に、EJB オブジェクトリファレンスが JNDI 名前空間の名前にバインドされます。

アプリケーションサーバで使用する JNDI 名前空間の名前には、別名を付けることができます。これによって、Enterprise Bean や J2EE リソースを別名でルックアップできるようになります。

JNDI ネーミングサービス

アプリケーションにネーミングサービスおよびディレクトリサービスのインタフェースを提供する、Java プラットフォーム用の標準拡張機能です。

Reliable Messaging では、アプリケーションでのキューオブジェクトの生成などに利用します。

JP1

統合システム運用管理ソフトウェアです。

JP1/AJS

日々の業務の中から、定型的・定期的なものを自動化して、システム運用に掛かるコストを削減し、少ない人員で確実な運用を実現するためのプログラム群です。JP1/AJS - Manager, JP1/AJS - Agent, JP1/AJS - View の製品で構成されます。

JP1/Base

JP1/IM, JP1/AJS などの JP1 製品の基盤機能を提供するプログラムです。JP1 製品を利用したシステム内のイベントや JP1 ユーザを管理したり、サービスの起動を制御したりできます。

JP1/IM

企業情報システム全体を統合管理する基盤になるプログラム群です。JP1/IM - Manager, JP1/IM - View, および JP1/IM - CM の 3 つの製品で構成されます。

なお、仮想化システムでは、JP1/IM - Manager および JP1/IM - View を使用して連携します。

JP1/ITRM

さまざまなシステム環境にある IT リソースの現状把握から割り当て、使用量の確認や最適化まで、IT リソースの運用サイクルを一元管理するためのプログラムです。

JP1/PFM

企業システムを構成するデータベースやアプリケーションなどの稼働状況を監視するプログラム群です。仮想化システムでは、JP1/PFM - Manager および JP1/PFM - Web Console を使用して連携します。

JP1/SC/DPM

デプロイメント操作を実行するためのソフトウェアです。ディスクイメージをバックアップしたり、OS やアプリケーションのインストールを一括して実施したりできます。

JP1 アカウント管理者

認証サーバである JP1/Base を操作し、アカウントを管理するユーザです。仮想化システムでは、仮想サーバマネージャ管理者アカウントおよびシステム構築者アカウントを管理します。

JP1 イベント

システム内で何らかの事象が発生した際に、その事象に関して JP1/Base に通知される情報です。

JP1 権限レベル

管理対象（資源）に対して JP1 ユーザがどのような操作ができる（権限がある）かを表した名称で、JP1/Base で定義します。仮想化システムでは、仮想サーバマネージャ管理者アカウントおよびシステム構築者アカウントに対する名称を設定します。

JP1 資源グループ

管理対象（資源）を分けたグループのことで、JP1/Base で定義します。仮想化システムでは、管理ユニットに対する JP1 ユーザのアクセスを制御するために、管理ユニット名を設定します。

JP1 ジョブ運用管理サーバ

JP1/AJS と連携してシステムの自動運転をする場合に、JP1/AJS - Manager を配置するホストのことです。

JP1 統合運用管理サーバ

JP1/IM と連携してシステムの集中監視をする場合に、JP1/IM - Manager を配置するホストのことです。

JP1 ユーザ

JP1/Base で管理されるアカウントのユーザ名です。JP1 ユーザーとして認証サーバに登録すると、管理対象（資源）へのアクセスが制御されます。

JPA プロバイダ

Java オブジェクトとデータベースのマッピング機能やデータベースへの処理をカプセル化した API を提供する JPA 実装です。

JPQL

JPA 仕様で定義されているクエリ言語です。データベースに依存しない言語で、エンティティクラスを対象に操作します。アプリケーションサーバでは、JPQL を使用したデータベース操作ができます。

JSON-XML 変換

HTTP 受付で JSON 形式の要求電文を XML 形式に、または XML 形式の応答電文を JSON 形式に変換する機能です。REST クライアントから送信された JSON 形式の要求電文を、HTTP 受付で XML 形式の要求電文に変換します。また、ビジネスプロセスから応答された XML 形式の応答電文を JSON 形式に変換し、REST クライアントへ応答します。

JSP コンパイル結果

JSP ファイルおよびタグファイルのコンパイルで生成される Java ソースファイルやクラスファイルです。

JSP 事前コンパイル

Web アプリケーションに含まれる JSP ファイルおよびタグファイルをデプロイ前にコンパイルする機能です。デプロイ前にコンパイルしておくことで、Web アプリケーションに対する初回リクエスト時のレスポンスタイムを短縮できます。

JSP 事前コンパイルの実行時に Java ソースファイルを生成したり、コンパイル対象外ファイルを指定したりすることもできます。

JSP タグライブラリ

JSP タグを作成するためのもので、JSP 仕様で規定されています。アプリケーションサーバでは、統合ユーザ管理をする場合に、標準ログインモジュールを使用してユーザ認証をするための JSP タグライブラリを提供しています。

JSP デバッグ

JSP のコンパイル時に、JSP ファイルの行と java ファイルの行のマッピングを記述した SMAP 情報を埋め込んだクラスファイルを作成する機能です。ブレークポイントの設定など、デバッグツールの機能を JSP ファイルで実行できるようになります。

Kafka アダプタ

サービスプラットフォームの実行環境から Apache Kafka に対してメッセージを送信する場合に利用するアダプタです。

Kafka インバウンドアダプタ

Kafka インバウンド連携機能で使用するリソースアダプタです。Connector 1.5 仕様に準拠しています。

Kafka インバウンド連携

Apache Kafka からメッセージを取得し、サービスプラットフォーム上の Kafka 受付を呼び出す機能です。

Kafka 受付

Kafka インバウンドアダプタを経由して Apache Kafka からの実行要求を受け付ける機能（インタフェース）です。

Managed Bean

管理対象となるリソースを表す Java オブジェクトです。JMX 仕様に基づいて実装されます。マネージャに対するリソースのインタフェースとして機能し、リソースに関する情報や操作をマネージャに提供します。

Management Server

運用管理ドメインを構成するサーバプログラムです。運用管理ドメイン単位に一つ配置します。

Management Server は運用管理ドメイン内の各ホストに配置した運用管理エージェントに指示を出して、運用管理ドメイン全体の運用管理を実行します。

Management アクション

Management イベント発生時に自動的に実行される処理です。Management アクションとしてどのような処理をするかは、Management Server 側であらかじめ定義しておきます。

Management イベント

Management Server を利用して運用している場合に、運用管理ドメイン内の論理サーバで発生した事象に応じて Management Server で発行するイベントです。論理サーバでメッセージが出力されたタイミングで発行できます。例えば、リソース監視中に設定したしきい値を超えた場合などに発行できます。

Management イベントに対して Management アクションを定義しておくことで、発生した事象に応じたアクションを自動的に実行できます。

Manager

アプリケーションサーバのシステムの運用管理機能です。Management Server および運用管理エージェントの総称です。

MBean

Managed Bean の略称です。説明については、[「Managed Bean」](#) を参照してください。

MDB

Message-driven Bean の略称です。説明については、[「Message-driven Bean」](#) を参照してください。

MDB (DB キュー) アダプタ

DB キューを利用して非同期のサービス部品を呼び出す場合に利用するアダプタです。

MDB (WS-R) アダプタ

WS-R (WS-Reliability) を利用して MDB (Message-driven Bean) で作成したサービス部品を呼び出す場合に利用するアダプタです。

Message-driven Bean

JMS と連携するメッセージ駆動タイプの Bean です。EJB コンテナは JMS の Destination からの JMS メッセージ受信を契機に Bean を起動します。

Reliable Messaging では、受信用のキューにメッセージが登録されたことを契機に、Message-driven Bean で実装したメソッドを実行できます。

Message Queue アダプタ

サービスプラットフォームの実行環境から既存のメッセージキュー (IBM MQ システム) に対してメッセージの送受信をする場合に利用するアダプタです。

Message Queue 受付

MQ リソースアダプタを経由して JMS プロバイダ (IBM MQ システム) からの実行要求を受け付ける機能 (インタフェース) です。

MIB オブジェクト

SNMP で使用するオブジェクトです。すべてのオブジェクト (情報) は、オブジェクト ID で一意に決まります。

MIME ヘッダ

電子メールやメッセージ内で、扱うデータ形式などを定義するヘッダのことをいいます。添付ファイル付き SOAP メッセージを送受信する場合、MIME ヘッダ内に SOAP メッセージと添付ファイルの関連づけを定義します。

mngsvrutil

Management Server を操作するための CUI です。

MVC

Model/View/Controller の略称です。Model は、システムの中でロジックを担当します。View は、表示、入出力などの部分を担当します。Controller は、View と Model を制御します。

N:1 リカバリシステム

クラスタ構成の実行系のアプリケーションサーバに対して、1 台のリカバリ専用サーバを待機系として配置したシステムです。リカバリ専用サーバでは、障害が発生した実行系のアプリケーションサーバのトランザクションの決着をします。

Namespaces in XML

XML で定義された複数の言語を一つの文書で扱う場合に、要素や属性の名前が衝突することを避けるために用いる修飾子です。

NIO HTTP サーバ

J2EE サーバプロセス上で動作する Web サーバ機能です。

Object Access アダプタ

サービスプラットフォームの実行環境から既存の TPBroker システム (Object Wrapper システム) のサービス部品を呼び出す場合に利用するアダプタです。

Object Transaction Service

TPBroker OTS による分散トランザクションを使用するために必要なサービスです。

Oracle RAC

Oracle データベースのクラスタ機能です。アプリケーションサーバでは、Oracle RAC 機能を使用してクラスタ化された Oracle データベースに接続できます。

ORB ゲートウェイ

CORBA クライアントから J2EE サーバ内で動作している EJB アプリケーションを直接呼び出しできるゲートウェイ機能です。CTM レギュレータプロセスによって提供されます。

OTM ゲートウェイ

TPBroker OTM のクライアントから J2EE サーバ内で動作している EJB アプリケーションを直接呼び出しできるゲートウェイ機能です。OTM ゲートウェイプロセスによって提供されます。

OTS

Object Transaction Service の略称です。説明については、[「Object Transaction Service」](#)を参照してください。

Outbound

Connector 1.5 仕様で定められた J2EE サーバとリソースアダプタ間の通信モデルの一つです。J2EE サーバからリソースアダプタにアクセスする通信モデルです。

Performance Tracer

リクエストが処理されるたびに、決められたポイントごとに各機能が出力する性能解析情報をファイルに出力するための構成ソフトウェアです。

Plain Old Java Object または Plain Ordinary Java Object

Java の仕様範囲で作成する Java オブジェクトを示す用語です。

POJO

Plain Old Java Object または Plain Ordinary Java Object の略称です。説明については、[「Plain Old Java Object または Plain Ordinary Java Object」](#) を参照してください。

prefork MPM

マルチプロセスで動作するモジュールです。

PRF デーモン

バッファに出力された PRF トレースを PRF トレースファイルに出力する IO プロセスです。

Management Server では、論理サーバとして扱えます。Management Server で扱う場合は、パフォーマンストレーサといいます。

PRF トレース

リクエストを処理する時にアプリケーションサーバの各機能で出力されたトレース情報です。バッファに出力されて、一定量たまったら PRF トレースファイルに出力されます。

PRF トレースサービス

PRF トレースを出力するために動作するプログラムです。PRF トレースを出力するプロセス、または PRF デーモンに常駐します。

PRF トレース出力ライブラリ

アプリケーションサーバで構築したシステムの各機能に組み込まれているライブラリです。機能レイヤごとの PRF トレースをバッファに出力する機能を提供しています。

PRF トレース取得レベル

PRF トレースを取得するレベルです。「標準レベル」、「詳細レベル」、「保守レベル」があります。「詳細レベル」または「保守レベル」を指定した場合、「標準レベル」に比べてトレース取得ポイントが多くなります。

PRF トレースファイル

PRF トレースを出力したバイナリ形式のファイルです。性能解析トレースファイル（CSV 形式）に変換する基になるファイルです。

RAP サーバ

リモート API 接続時に、クライアントからの要求を代理実行するサービスです。

RAP リスナー

リモート API 接続で、クライアントからの接続確立要求を受け付けるサービスです。

RealServer

負荷分散機の実サーバを意味します。負荷分散機上で、VirtualServer が受け付けたリクエストの振り分け先となる実際のサーバを表すオブジェクトのことです。仮想化システムの仮想サーバごとに一つ作成されます。

Reliable Messaging

アプリケーションサーバで構築したシステム上の J2EE アプリケーションがメッセージを使用して非同期に通信するための構成ソフトウェアです。JMS インタフェースでのメッセージ通信機能を J2EE アプリケーションに提供します。

Remote Procedure Call

ネットワーク上の異なるマシンで処理を実行する手続きのことをいいます。RPC 形態の SOAP アプリケーションでは、クライアント側で引数を指定して、サーバ側から戻り値を受け取る形でサービスを提供します。

RMI-IIOP

Remote Method Invocation over Internet Inter-ORB Protocol の略称です。JavaRMI と JavaIDL を統合した API です。EJB コンポーネントとそれぞれのコンテナは、Remote Method Invocation (RMI) テクノロジーを使って、分散オブジェクト間のメソッド呼び出しを実装します。

RPC

Remote Procedure Call の略称です。説明については、[「Remote Procedure Call」](#)を参照してください。

RSA 暗号

公開鍵暗号の標準として最も広く普及している暗号化／復号化技術です。大きな数を素因数分解するのは困難であるという、数学上の性質を利用しています。「RSA」は 3 人の発明者 (Rivest 氏, Shamir 氏, Adleman 氏) の頭文字を基にしています。

SecurityManager

セキュリティポリシーに基づいた Web コンテナの実行時保護をする J2EE サーバの機能です。

Service Architect

サービスプラットフォームの開発環境を構築・運用するための製品です。

Service Coordinator

Service Platform を構成する構成ソフトウェアの一つです。サービスプラットフォームで SOA を適用したシステムを構築、運用するための機能として、ビジネスプロセス実行機能、データ変換機能、アダプタ定義機能、実行環境の運用管理機能、およびメッセージング制御機能を提供しています。

Service Platform

サービスプラットフォームの実行環境・運用環境を構築・運用するための製品です。

Session Bean

Session Bean は、主に業務処理を実行するための Bean です。Session Bean は、クライアントを一つだけ持つことができます。クライアントが終了すると、対応する Session Bean も終了します。クライアントとのセッションの間だけ動作するため、一時的であり、非永続的な Bean です。Session Bean は、Stateful Session Bean と、Stateless Session Bean に分類されます。

SessionBean アダプタ

SessionBean を利用してサービス部品を呼び出す場合に利用するアダプタです。

SFTP アダプタ

サービスプラットフォームと SFTP サーバとの間で SFTP プロトコルによるファイル転送をする場合に利用するアダプタです。

Smart Composer 機能

一般的な 3 階層モデルのアプリケーションサーバのシステムを、簡単に構築および運用できるよう支援する機能です。システム全体に対して、システムの設定、および J2EE アプリケーションやリソースアダプタのデプロイを一括で実行できるので、簡単、迅速にシステム構築ができます。

構築したシステムを一括で起動したり、一括でシステムの設定を変更したりするなど、運用機能についてもサポートしています。

snapshot ログ

ある時点での J2EE サーバやバッチサーバの状態が出力されたログファイルです。

トラブルシューティングに必要な情報が自動的に出力されます。

Management Server を利用している場合は、次のタイミングで出力されます。

- 論理サーバに異常が発生した時
- 運用管理ポータルまたは運用管理コマンドによって snapshot ログの収集を要求した時

Management Server を利用していない場合は、コマンド (snapshotlog) を実行した時に出力されます。このコマンドで出力できるのは、そのコマンドを実行したホストの情報だけです。

SNMP 連携用形式ファイル

SNMP Manager 製品と連携するためのファイルです。MIB ファイルに変換する基になる形式のファイルです。Management Server の運用管理コマンド (mngsvrutil) で出力できます。

SOAP

HTTP などの通信プロトコルを下位に持ち、ネットワークを経由したシステム間の通信を規定した、XML ベースのプロトコルです。

SOAP1.1/1.2 併用モード

サービスプラットフォームで、利用する Web サービスの標準仕様および通信基盤を表すモードです。SOAP1.1 仕様および SOAP1.2 仕様に対応したサービス部品/サービスリクエストを利用するときに指定します。SOAP1.1/1.2 併用モードでは、通信基盤としてアプリケーションサーバが提供する JAX-WS エンジンを利用します。

SOAP1.1 モード

サービスプラットフォームで、利用する Web サービスの標準仕様および通信基盤を表すモードです。SOAP1.1 仕様に対応したサービス部品/サービスリクエストを利用するときに指定します。SOAP1.1 モードでは、通信基盤としてアプリケーションサーバが提供する SOAP 通信基盤を利用します。

J2EE サーバが推奨モードの場合、SOAP1.1 モードは使用できません。

SOAP Fault

SOAP メッセージの処理中に発生したエラーを記述するための SOAP メッセージです。SOAP Fault は、SOAP エンジンが作成するものと、SOAP サービスの開発者が作成するものに分けられます。

SOAP with Attachments API for Java

Java XML Pack に含まれている機能の一つで、添付ファイル付き SOAP メッセージを扱うための API を提供します。

SOAP アタッチメント

SOAP メッセージの本体情報を複数含む部分です。また、バイナリ形式のデータもここに含む場合があります。

SOAP アダプタ

Web サービス (SOAP 通信) を利用してサービス部品を呼び出す場合に利用するアダプタです。

SOAP アプリケーション

アプリケーションサーバの既存機能である SOAP アプリケーション開発支援機能で開発された Web サービス用のアプリケーションです。

SOAP アプリケーション開発支援機能

アプリケーションサーバが提供する、SOAP アプリケーションを開発するための機能です。SOAP アプリケーション開発支援機能では、開発支援コマンドを使用して SOAP アプリケーションを開発できます。

SOAP 受付

Web サービス (SOAP 通信) を使用したシステムでサービス部品呼び出し要求を受け付ける機能 (インタフェース) です。

SOAP エンジン

クライアントと、SOAP サービスの送受信の仲介をするエンジンです。SOAP エンジンでは、クライアントから送信されたメッセージを解析し、SOAP サービスへ送信します。SOAP サービスで処理が行われたあと、返されたメッセージをクライアントに送信します。

SOAP エンベロープ

SOAP メッセージの要素です。メッセージのいちばん外側の要素で、SOAP ヘッダと SOAP ボディという子要素を持ちます。

SOAP クライアントライブラリ

クライアントに実装した処理と、サーバの送受信の仲介をするライブラリです。SOAP クライアントライブラリでは、クライアントに実装した処理からメッセージを受信し、SOAP サービスを呼び出します。SOAP サービスで処理が行われたあと、返されたメッセージを解析し、処理結果として呼び出し元に返します。

SOAP サービス

SOAP アプリケーションを形成するプログラムのうち、サーバ側に配置して、クライアントから要求された処理を行うプログラム (サービス) のことをいいます。

SOAP 通信基盤

アプリケーションサーバが提供する Web サービス (SOAP アプリケーション) の通信基盤です。SOAP1.1 仕様に对应しています。

SOAP ヘッダ

SOAP メッセージの要素です。SOAP ヘッダでは、メッセージ処理のあて先、およびメッセージ処理が必須かどうかを指定します。

SOAP ボディ

SOAP メッセージの要素です。SOAP ボディに送信するメッセージの内容を記述します。

SOAP メッセージ

SOAP プロトコルでシステム間の送受信に使用するメッセージです。SOAP メッセージは、SOAP エンベロープ、SOAP ヘッダ、および SOAP ボディという要素で構成されます。

SPP

OpenTPI の UAP のうち、ファイルへのアクセスなどサーバの役割をするプログラムです。

SQL オペレーション定義ファイル

DB アダプタを利用してデータベースにアクセスする場合に、実行する SQL を定義するファイルです。DB アダプタ用の XML フォーマット定義ファイルを作成するときの基となるファイルです。

Stateful Session Bean

Stateful Session Bean は、内部的な状態を保持できる Bean です。Stateless Session Bean とは異なり、ホームインタフェースからの生成によってインスタンス化されたあとは、メソッドの呼び出しごとに生成、消滅することはありません。セッション単位で連続した処理を行う場合に適した Bean です。

Stateless Session Bean

Stateless Session Bean は、内部的な状態を保持しない Bean です。Bean のインスタンスの生成・消滅は、すべて EJB コンテナが独自に管理しています。同じ Bean のメソッドを続けて呼び出した場合にも、それらが同じインスタンスである保証はありません。そのため、Stateless Session Bean では、内部状態を保持して、複数メソッドで連続した処理を行うことはできません。1 メソッドで完結するような処理を記述する場合に適しています。

Struts

Web アプリケーションのユーザインタフェースを開発するためのフレームワークです。MVC (Model View Controller) アーキテクチャの Controller であるサーブレットで Web アプリケーションを管理する機能のほか、ユーザインタフェースの構成要素を部品として持っており、それらの部品をフォームに配置することでユーザインタフェースを構築できます。

Timer Service

EJB コンテナで提供される機能です。指定した時刻、経過時間、または間隔で、EJB コンテナがタイムアウトメソッドをコールバックします。

TP1/Client/J

WWW ブラウザで動作する Java アプレット、Java アプリケーション、およびアプリケーションサーバで動作する Java サーブレットから、OpenTP1 のサーバ UAP へ RPC でサービスを要求するための製品です。

TP1/EE

TP1/Server Base と合わせて使用するオプション製品です。Reliable Messaging との間で DB を介したメッセージの送受信を行う機能を備えています。TP1/EE を利用することによって、OpenTP1 との間での異なるコンポーネント間の通信が実現できます。

TP1/RPC 受付

既存の OpenTP1 システム内にあるサービスリクエストからのサービス部品呼び出し要求を受け付けるための機能 (インタフェース) です。

TP1 アダプタ

サービスプラットフォームの実行環境から既存の OpenTP1 システム内にあるサービス部品を呼び出す場合に利用するアダプタです。

TP1 インバウンドアダプタ

TP1 インバウンド連携機能で使用するリソースアダプタです。Connector 1.5 仕様に準拠しています。

TP1 インバウンド連携機能

TP1 インバウンドアダプタを使用して、OpenTP1 システムの SUP からアプリケーションサーバ上の Message-driven Bean を Inbound で呼び出す機能です。

TP1 連携システム

OpenTP1 システム内にあるサービスリクエストおよびサービス部品と接続するためのシステム構成です。

Transformation API for XML

JAXP の仕様に含まれる API で、XSLT トランスフォーマの標準 API です。

TrAX を使用することで Java プログラムから XML 変換処理を実現できます。単純な XML 文書の変換であれば TrAX だけで実現できます。

TrAX

Transformation API for XML の略称です。説明については、[「Transformation API for XML」](#)を参照してください。

UAP

ユーザの業務をプログラムとして作成したものです。

UDDI

UDDI は SOAP Web サービスに関する情報を公開したり、検索したりするための API、およびその情報を格納する UDDI レジストリを規定しています。

UML

Unified Modeling Language の略称です。説明については、[「Unified Modeling Language」](#)を参照してください。

Unified Modeling Language

OMG が制定したモデリング言語です。オブジェクト指向をベースとするアプリケーションの構造を、ソースコードよりも抽象化した形で構造的かつ形式的な形で表現できる表記方法を提供します。UML が提供する表記方法は、分析する内容や目的に応じて、ユースケース図、クラス図、シーケンス図などに分けられます。

Uniform Resource Identifier

URL のように Web 上のデータの位置を指定する方法と、Web 上の特定のデータを固有の名前で指定する方法を持ち合わせた規格です。URL と URN を組み合わせたもので、XML 文書中でインターネット資源を表したり、名前空間を識別したりするときに使用します。URI は一般的概念で、URL の上位集合です。RFC1630 で規定されています。

Uniform Resource Locator

Web 上にある特定のデータの位置を指定する規格です。

URI

Uniform Resource Identifier の略称です。説明については、[「Uniform Resource Identifier」](#)を参照してください。

URI のデコード機能

リクエスト URI のサブレットパスおよび追加のパス情報に含まれる URL エンコードされた文字列をデコードする機能です。URI のデコード機能でデコードされた文字列が、アプリケーションサーバの各種マッチング処理で使用されます。

URL

Uniform Resource Locator の略称です。説明については、[「Uniform Resource Locator」](#)を参照してください。

usrconf.properties

説明については、[「ユーザプロパティファイル」](#)を参照してください。

V9 互換モード

09-87 以前との互換性を重視するシステム向けのモードです。11-00 以降で廃止された機能を使用できますが、11-00 以降の新機能は使用できません。

Virtage

ハイパーバイザの種類の一つです。サーバ論理分割機構のことです。単純なサーバ統合にも、基幹系システムにも適した高性能・高信頼なサーバ仮想化技術を提供します。

VirtualServer

負荷分散機の仮想サーバの略称です。説明については、[「負荷分散機の仮想サーバ」](#)を参照してください。

VMware ESX

ハイパーバイザの種類の一つです。VMware 社によって開発されている、物理マシン上に仮想的なハードウェア（仮想サーバ）を生成するソフトウェアです。

W3C

World Wide Web Consortium の略称です。説明については、「[World Wide Web Consortium](#)」を参照してください。

WAR ファイル

Web ARchive ファイルの略称です。Web アプリケーションの構成要素を WAR 形式に圧縮したファイルです。Web アプリケーションの実行に必要な HTML ファイル、JSP ファイル、Java クラスファイル、JAR ファイル、および Web アプリケーション配置記述子が含まれます。

Web Services Interoperability Organization

WS-I とは、異なるベンダで作成された Web サービス製品やプラットフォーム間の相互接続性を向上させるための標準仕様を制定している団体です。

Web Services Reliability

標準化団体 OASIS で標準化された、インターネット向けのオープンな非同期通信プロトコルです。WS-Reliability と表記することもあります。

Web アプリケーション

Web ブラウザを備えたクライアントを対象に作成されたアプリケーションです。具体的には、サーブレットプログラム、JSP ファイル、および HTML/XML ドキュメントなどの集合体です。

Web アプリケーションのバージョン設定機能

web.xml で定義されている Web アプリケーションのバージョンを変更しないで、設定したバージョンに準拠して Web アプリケーションを実行する機能です。旧バージョンで作成したアプリケーションを移行するときなどに利用できます。

Web 画面

このマニュアルでは、Web アプリケーションの画面遷移を構成する、個々の画面を指します。

Web コンテナ

Web アプリケーションを制御する実行環境です。また、セキュリティ、トランザクションなどの各種サービスも提供します。Web アプリケーションは、Web コンテナ上で動作します。

Java Servlet2.5 仕様、および JavaServer Pages Specification v2.1 仕様に準拠した Web アプリケーションを実行できます。

Web サーバ

Web ブラウザからのリクエスト受信および Web ブラウザへのデータ送信に関連する処理を実行するプログラムです。アプリケーションサーバでは、HTTP Server、Microsoft IIS、またはインプロセス HTTP サーバを使用できます。インプロセス HTTP サーバは、J2EE サーバプロセス内で動作する Web サーバです。

Web サーバ連携

アプリケーションサーバで使用する Web サーバとして、HTTP Server と連携する方法です。HTTP Server のリバースプロキシ機能を使用します。

V9 互換モードの場合は、アプリケーションサーバで使用する Web サーバとして、HTTP Server または Microsoft IIS を使用する的方法です。

HTTP Server または Microsoft IIS に Component Container が提供するリダイレクトモジュールを組み込んで使用します。

Web サービス

Web 関連の技術を利用して、ネットワークを介して提供されるプログラム（サービス）です。アプリケーションサーバでは SOAP Web サービスと RESTful Web サービスを開発し、実行できます。

Web サービスクライアント

Web サービスを利用するクライアントプログラムです。SOAP Web サービスのクライアントの開発では、コマンドで自動生成されたクラスを利用して、Web サービスを呼び出す処理を記述します。RESTful Web サービスのクライアントは、標準的な Java API を使用して開発します。

Web サービス実装クラス

SOAP Web サービスの実装に当たるプログラムです。SOAP Web サービスの開発では、コマンドで自動生成されたクラスを利用して実装を記述します。

Web サービスセキュリティ

このマニュアルでは、WS-Security 仕様に基づいた、SOAP メッセージに対するセキュリティ技術を Web サービスセキュリティと呼びます。

Web サービスセキュリティ機能

Web サービスセキュリティを実現するための機能です。Web サービスセキュリティ機能は、Web Services - Security が提供する定義ファイルを設定することによって、使用できます。

Web サービスセキュリティ機能定義ファイル

Web サービスセキュリティ機能の詳細を定義するための XML ファイルです。Web サービスセキュリティ機能定義ファイルは、サーバとクライアントの両方に配置します。

Web サービスセキュリティ方針定義ファイル

Web サービスセキュリティ機能を使用する場合に従う方針を定義するための XML ファイルです。Web サービスセキュリティ方針定義ファイルは、サーバとクライアントの両方に配置します。

Web システム

1 台の負荷分散機（ロードバランサ）と複数の Web サーバおよびアプリケーションサーバで構築される Web クラスタシステムで、単一の業務サービスを提供します。

Web リソース

JAX-RS 機能を使用した RESTful Web サービスのことです。

WFA

Work-Flow Architecture の略称です。説明については、「[Work-Flow Architecture](#)」を参照してください。

Windows Server Failover Cluster

クラスタソフトウェアの一つです。

システムを監視し、障害発生時などにシステムの切り替えを実行するプログラムです。Windows Server Failover Cluster と連携することで、アプリケーションサーバで構築したシステムの信頼性や稼働率を向上できます。

Windows Server Failover Cluster と連携したシステムでは、1：1 系切り替えシステム、相互系切り替えシステム、N：1 リカバリシステム、およびホスト単位管理モデルを対象とした系切り替えシステムが実現できます。

Work-Flow Architecture

経済産業省がエンタープライズアーキテクチャで提案している業務フローの記法です。業務に関わる組織や担当者、業務の流れ、および流れる情報を明示できます。

worker MPM

マルチプロセス・マルチスレッドで動作するモジュールです。

World Wide Web Consortium

XML や DOM を含む Web 関連技術の標準化を推進する非営利団体です。

WS-I

Web Services Interoperability Organization の略称です。説明については、「[Web Services Interoperability Organization](#)」を参照してください。

WS-R

Web Services Reliability の略称です。説明については、「[Web Services Reliability](#)」を参照してください。

WS-Security

OASIS が規定している、SOAP Web サービスのセキュリティに関する仕様です。WS-Security は、XML セキュリティの技術を利用しています。

WSDL

Web Service Description Language の略称です。SOAP Web サービスを記述するための言語仕様の一つです。XML がベースとなっています。

WSDL 生成機能

開発支援コマンドによって、WSDL を自動的に生成する機能です。

WTP

Eclipse Web Tools Platform の略称です。説明については、「[Eclipse Web Tools Platform](#)」を参照してください。

WTP コネクタ

Eclipse のプラグインです。WTP から J2EE サーバを起動したり、J2EE アプリケーションを J2EE サーバにデプロイしたりするときに使用します。

XML Schema

W3C 勧告で定められた仕様で、XML 文書内の論理的なデータ構造を規定するための仕組みです。

XML 暗号

データの送受信中に、第三者にデータの内容を知られないようにするための暗号です。XML 文書以外のバイナリデータなどにも適用できます。

XML 暗号アプリケーション

XML Security - Core が提供する機能を使用して開発した、データを暗号化または復号化するアプリケーションです。

XML 仕様

W3C 勧告の「XML 1.0」および「XML 1.1」で定められた仕様です。XML Processor の XML パーサは、XML 仕様に従った XML 文書进行处理できます。

XML 署名

第三者による成り済ましやデータの改ざんを防止するために、電子データに付加する電子署名です。XML 文書以外の電子データにも付けられます。

XML 署名アプリケーション

XML Security - Core が提供する機能を使用して開発した、データに XML 署名を付与したりデータに付与された XML 署名を検証したりするアプリケーションです。

XML スキーマ

W3C 勧告で定められた仕様で、XML 文書内の論理的なデータ構造を規定するための仕組みです。

XML セキュリティ

このマニュアルでは、W3C が規定している XML 署名および XML 暗号を総称して XML セキュリティと呼びます。

XML パーサ

XML 文書を解析するプログラムです。

パーサには、DOM API を使用する DOM パーサと、SAX を使用する SAX パーサの 2 種類があります。DOM パーサは、XML 文書の解析結果を DOM ツリーとして出力します。SAX パーサは、DOM ツリーを出力しない代わりに、解析結果をイベントとして SAX に通知します。

このマニュアルではこれらのパーサを総称して XML パーサと呼びます。

XML フォーマット定義ファイル

XML 形式のデータを扱う場合に利用する電文フォーマット定義ファイルです。XML スキーマファイルとして作成します。

XML 文書

XML 形式で記述された文書です。

XPath

XML 文書の中の特定の要素を示すための記述方法に関する W3C 勧告の標準仕様です。XML 形式のデータのツリー構造をたどって要素や属性にアクセスする手段が規定されています。

XPath を使用すれば XML 文書中にアンカーを指定しなくても、文書中の任意の位置を指定できます。

XSL

Extensible Stylesheet Language の略称です。説明については、[「Extensible Stylesheet Language」](#) を参照してください。

XSLT

XSL Transformations の略称です。説明については、[「XSL Transformations」](#) を参照してください。

XSLTC トランスフォーマ

XSLTC トランスフォーマは、XML Processor が提供している XSLT トランスフォーマと同じ機能を持ちながら、XML 文書の変換処理時の性能を向上させたものです。XSLT スタイルシートを解析するコンパイラと変換処理を行う実行時プロセッサで構成されます。

XSL Transformations

XML 文書をスタイルシートに従った XML 文書や HTML、テキストに変換するなどの、XML 文書の構造変換を行うための仕様です。

XSLT トランスフォーマ

XSLT を実装したプログラムです。XML 文書をスタイルシートに従った XML 文書や HTML、テキストに変換できます。

(ア行)

アーカイブ形式

EJB やサーブレットなどのアプリケーションの実体を J2EE サーバの作業ディレクトリに持つ J2EE アプリケーションの形式です。

J2EE アプリケーションなどを構成するプログラムや DD は、WAR ファイル、EAR ファイル、または ZIP ファイルにパッケージングされています。

アウトプロセス

プロセスの起動のしかたです。アウトプロセスで起動させると、J2EE サーバのプロセス外で実行します。アウトプロセスでネーミングサービスを使用する場合、CORBA ネーミングサービスはユーザが起動する必要があります。

アクション

Web 画面の遷移上での動作を示す用語です。

アクティビティ

ビジネスプロセスの処理フローを定義する部品です。基本アクティビティと構造アクティビティに分類されます。複数のアクティビティを画面上に配置、連結して、ビジネスプロセスの処理フローを定義します。

あて先

メッセージの送信先であるシステムのことです。

あて先アドレス

メッセージの送信先であるシステムのアドレスです。

アノテーション

ソースコードにクラスやメソッドの付加情報などを埋め込むための記述方式です。アノテーションを指定することで、Enterprise Bean が依存しているリソースやほかの Enterprise Bean への参照を取得できます。

アプリケーションサーバ

業務システムの中核に位置し、相互の要求・応答の橋渡しをするとともに、ビジネスロジックの実装・管理・制御に必要な機能を提供するミドルウェアのことです。プレゼンテーション層、アプリケーション層、データ層の3階層モデルのうち、アプリケーション層に配置されるビジネスロジックの基盤となります。

Java EE 仕様に準拠した Java アプリケーションを実行する機能を持つサーバを指すことが多く、Java EE 仕様のサポートはもとより、次のような機能と連携した運用機能を備えたアプリケーションサーバを提供しています。

- スケジューラによる EJB 流量・優先制御
- 負荷分散
- バッチアプリケーションのスケジューリング機能
- OpenTP1 からの RPC 接続受付機能
- 仮想化プラットフォーム

アプレット

Web 経由で読み手のマシンのブラウザ上にダウンロードされる Java プログラムです。

アンマーシャル

JAXB API を使用して XML 文書を読み込み、Java のオブジェクトに変換することをアンマーシャルといいます。XML 文書をデシリアライズすることです。

一時クローズ処理

OpenTP1 と TP1 インバウンドアダプタ間の接続数がしきい値に達した場合に、接続を切断する処理のことです。

イベントリスナ

イベントを受け取って処理するオブジェクトです。アプリケーションサーバでは、Web アプリケーション単位でサーブレットコンテキストオブジェクトまたはセッションオブジェクトの状態変化イベントを受け取ります。

インスタンス文書

スキーマ検証の対象となる XML 文書です。

インプロセス

プロセスの起動のしかたです。インプロセスで起動させると、J2EE サーバのプロセス内で実行するように最適化されるので、パフォーマンスの高いシステムが実現できます。ネーミングサービス、トランザクションサービスおよび HTTP サーバ機能をインプロセスで起動できます。このとき、CORBA ネーミングサービス、インプロセス OTS および NIO HTTP サーバは、J2EE サーバ起動時に自動で起動されます。

ウィザード

パッケージ・ソフト製品に組み込まれるヘルプ機能の一種です。設定作業を支援する対話型のナビゲータ機能を一般にウィザードと呼びます。表や文書の書式設定やクロス集計表の作成など、細かなノウハウが求められる複雑なパラメタ設定作業を対話形式で誘導（ナビゲーション）します。

受付処理

サービス部品の呼び出し要求を受け付けたり、電文を転送したりする処理を記述した API です。ユーザが作成した受付処理をカスタム受付フレームワーク上で動作させることで、任意のプロトコルに対応した受付を開発できます。

運用環境

開発環境で作成した EAR ファイルをリポジトリから読み込み、実行環境に配備する環境です。また、実行環境で利用する HCSC サーバをセットアップします。実行環境での業務の運用を開始したあとは、システムの起動・停止、および状態を監視します。

運用監視エージェント

ホスト上で動作する論理サーバの稼働状況を監視して、稼働情報を収集するエージェントプログラムです。

運用管理エージェント

運用管理者の代わりに、それぞれのホスト上の論理サーバを起動したり、設定ファイルを更新したりするエージェントプログラムです。

運用管理コマンド

mngsvrutil を指します。説明については、「[mngsvrutil](#)」を参照してください。

運用管理サーバ

Smart Composer 機能または運用管理ポータルでシステムを構築している場合に、Management Server を配置したホストです。運用管理ドメイン内の各ホストに配置されている運用管理エージェントに対して、管理操作を指示します。

運用管理サーバモデル

Smart Composer 機能または運用管理ポータルでシステムを構築している場合に、アプリケーションサーバとは別の運用管理用のホストに Management Server を配置するシステム構成モデルです。

運用管理ドメイン

Management Server が管理する論理サーバの集合です。同じ運用管理ポリシーが適用されます。

運用管理ポータル

Management Server を操作するための GUI です。Web ブラウザで表示します。

運用管理ポリシー

運用、監視、セキュリティなど、運用管理に関するポリシーです。

永続化 [Reliable Messaging]

不揮発性の記憶媒体にデータを保存し、変化しない状態にすることです。

永続化 [サービスプラットフォーム]

ビジネスプロセスのプロセスインスタンスの実行状況を履歴として、データベースに記録することです。

永続版リソースアダプタ

データベースにメッセージを永続化する Reliable Messaging のリソースアダプタのことです。メッセージの再現性を保持し、高信頼な非同期のメッセージの受け渡しを実現します。

エラーページのカスタマイズ

Web クライアントから存在しないリソースへのアクセスなどがあった場合に、Web コンテナから返却されるエラーページをユーザが作成した任意のページに変更して表示させる機能です。

エンティティ

XML 文書中で使用される画像データや PDF ファイルなどのファイルや、置換する文字列などのデータを保持する実体です。

応答電文

サービス部品の実行結果を返すための電文です。応答電文には、サービス部品から HCSC サーバに送信される電文と、HCSC サーバからサービスリクエストに送信される電文があります。

(力行)

開発環境

実行環境でサービス部品を呼び出すために必要な HCSC コンポーネントを作成したり、作成した HCSC コンポーネントを HCSC サーバおよびクラスタにどのように配備するか定義（配備定義）したりする環境です。

開発環境インスタントセットアップ機能

J2EE アプリケーションの開発に必要なサーバ環境をセットアップします。Developer が提供する機能です。この機能を実行すると、Management Server、ホスト、パフォーマンストレーサ、J2EE サーバ、および組み込みデータベースがセットアップされます。

鍵暗号化鍵

送信中に第三者に内容を知られたくないデータを暗号化する場合、データを暗号化した鍵（データ暗号化鍵）を暗号化して送信するときに使用する鍵です。

鍵合意

送信者と受信者が事前に秘密情報を共有しない状態で、第三者に知られない秘密情報を生成して共有するための仕組みです。鍵合意で生成した秘密情報を基に生成した鍵は、送信者と受信者だけが共有する共通鍵として使用できます。

カスタム受付

サービスリクエストからの実行要求を受け付けるための機能（インタフェース）です。ユーザが作成した受付処理をカスタム受付フレームワーク上で動作させることで、任意のプロトコルからの実行要求を受け付けることができます。

カスタム受付フレームワーク

カスタム受付を作成するためにサービスプラットフォームで提供している開発用フレームワークです。

カスタムジョブ

JP1/AJS 以外のプログラムと JP1/AJS が連携するジョブを定義する場合に、目的のジョブを容易に作成するために使用できるジョブのテンプレートです。Windows の場合、アプリケーションサーバでは、「論理サーバ制御用カスタムジョブ」と「アプリケーション制御用カスタムジョブ」の 2 種類を提供しています。

カスタムバインディング宣言

スキーマコンパイラを使用して Java ソースファイルを生成するとき、入力のスキーマ文書中に記述するカスタマイズ指示です。デフォルトの JAXB バインディングを変更したい場合に使用します。

カスタムファンクション

データ変換の定義で使用するファンクションの一つです。このファンクションでは、ユーザが作成した任意の Java プログラムを呼び出し、データを加工できます。

カスタムログインモジュール

標準ログインモジュール以外の認証モジュールを使用して、アプリケーションのユーザ認証をする場合に作成する実装クラスです。

仮想化環境

仮想化ソフトウェアによって実現される仮想サーバを使用した環境のことです。

仮想化ソフトウェア

ソフトウェアで仮想サーバを実現する製品の総称です。

仮想サーバ (仮想化ソフトウェア)

仮想化ソフトウェアによって実現される論理的なマシンです。OS や製品がインストールされたものに対して、仮想サーバマネージャによってアプリケーション実行環境 (アプリケーションサーバ) の運用管理ができます。

仮想サーバ (負荷分散)

負荷分散機で複数の実サーバを管理するための仮想的なサーバです。負荷分散機では、クライアントから仮想サーバにアクセスされたトラフィックを、実サーバに自動分配します。

仮想サーバ識別子

仮想サーバマネージャが、仮想サーバを識別するために使用する識別子です。管理 LAN (管理用のサーバを配置した LAN) に接続されている NIC (ネットワークアダプタ) の IP アドレスを設定します。

仮想サーバマネージャ

仮想化システムの運用環境で動作するプロセスです。仮想化システムの運用環境を構築し、仮想サーバへのアプリケーション実行環境 (アプリケーションサーバ) の構築、業務の開始、停止など、仮想サーバを運用管理するための機能を提供します。

仮想サーバマネージャ管理者アカウント

仮想サーバマネージャのすべての機能を操作できる権限を持つアカウントです。仮想化システムの運用環境を操作する、仮想サーバマネージャ管理者に対して与えます。

カタログ機能

カタログ機能とは、XML Catalogs 1.1 仕様に基づき、マッピング (対応付け) を実行する機能です。マッピング (対応付け) には次の 2 とおりがあります。

- xsd:import 要素の namespace 属性で指定する XML スキーマの名前空間 URI と、XML スキーマのロケーションを示す URI 参照とのマッピング
- WSDL または XML スキーマのロケーションを示す URI 参照と、別の WSDL または XML スキーマのロケーションを示す URI 参照とのマッピング

カタログファイル

カタログファイルは、カタログ機能を利用する場合に配置するファイルです。このファイルにマッピング（対応付け）情報を定義します

稼働情報収集機能

J2EE サーバやバッチサーバ内の各機能の稼働情報を定期的に収集し、ファイルに出力する機能です。出力されたファイルを稼働情報ファイルといいます。

環境設定ファイル

サーバやクライアントの実行環境に合わせて、必要な設定を変更するためのプロパティファイルです。環境設定ファイルには、キーストアファイルや証明書ファイルの格納場所などを記述します。

監査証跡

データベースの機能で出力する、データベースに対する操作記録のことです。データベースに対する権限の運用が適切に行われているかどうかをチェックするために使用します。アプリケーションサーバでは、監査証跡にアプリケーションサーバで構築したシステムの情報を出力するためのデータベース監査証跡連携機能を提供しています。

監査ログ

システム構築者やシステム運用者がアプリケーションサーバのプログラムに対して実行した操作、およびその操作に伴うプログラムの動作の履歴が出力されるファイルです。監査者が監査ログを調査することで、「いつ」「だれが」「何をしたか」を知ることができて、システムの運用が法規制、セキュリティ評価基準、または業界ごとの各種の基準に準拠していることを証明できます。

監視ツリー

JP1/IM 連携をしている場合に、統合スコープに表示するツリーのことです。アプリケーションサーバで構築したシステムでは、監視ツリーとして、アプリケーションサーバの業務指向ツリーとサーバ指向ツリーの 2 種類を作成する機能を提供しています。

管理 LAN

管理用のサーバを配置した LAN のことです。

管理対象オブジェクト

Connector 1.5 仕様で定義された、キューやトピックなどを使用したメッセージの送受信で使用するオブジェクト (AdminObject) です。メッセージ送信や、同期または非同期でのメッセージ受信でのメッセージ変換で使します。

管理対象オブジェクトは、メッセージプロバイダごとに特有のオブジェクトです。リソースアダプタが使用する管理対象オブジェクトは、リソースアダプタの DD (ra.xml) の <adminobject>タグで指定します。

管理ユニット

同一のデプロイメント (プロセスの配置, J2EE アプリケーションやリソースアダプタのデプロイ, 定義) を適用する仮想サーバの集合です。

仮想化システムの構築・運用で使用する概念です。

管理用サーバ

EJB のスタブなどのダウンロードに利用するサーバ機能です。

キーストア

秘密鍵, 公開鍵, および証明書を持つ, 保護されたデータベースです。

機能レイヤ

性能解析トレース収集をする場合に, PRF トレースを出力する機能の層です。EJB クライアント, Web コンテナ, CTM, EJB コンテナ, JNDI, JTA, JCA/JDBC などがあります。

基本アクティビティ

受付処理, 応答処理, サービス部品の呼び出しなど, ビジネスプロセス内の基本的な処理を定義するためのアクティビティです。

キャッシュテーブル

メモリキャッシュを格納する内部のテーブルです。J2EE サーバを起動したときに作成されます。

キャッシュファイル

ディスクキャッシュを格納するディスク上のファイルです。

キュー

アプリケーションが送受信するメッセージの格納先です。

Reliable Messaging では, DB 上にキューが作成されます。

キュー間転送

サーバ間転送で, 自サーバのキューから相手サーバのキューへメッセージを転送することです。

キュー作成ファイル

非永続版リソースアダプタで使用するキューを定義するためのファイルです。永続版リソースアダプタではコマンドでキューを作成しますが、非永続版リソースアダプタではキュー作成ファイルにキュー属性を定義しておくことでリソースアダプタの起動時にキュー情報が有効になります。

キュー定義ファイル

JNDI ネーミングサービスに登録するキュー表示名と実際のキュー名を関連づけるファイルです。キュー定義ファイルのフルパスを QueueConfigFileName プロパティに指定すると、Reliable Messaging の開始時に、定義されたキュー表示名が JNDI ネーミングサービスに登録されます。

キュー定義文

キュー作成ファイル内でキュー属性やキュー名を定義するための文のことです。キュー定義文に記述された内容に従って、リソースアダプタの起動時にキュー情報を復元します。

共通鍵

共通鍵暗号で使用する、決められた 2 者間だけで共有する鍵 (secret key) です。共通鍵暗号では、共通鍵でデータを復号化します。共通鍵は、決められた 2 者が安全に管理します。

共通定義ファイル

システム共通の動作を設定するための定義ファイルです。

共通フォルダ

複数のビジネスプロセスからアクセスできるファイルを格納するために HCSC サーバに作成する任意のフォルダです。

業務 LAN

業務用のサーバを配置した LAN のことです。

業務指向ツリー

JP1/IM と連携している場合に統合スコープに表示する監視ツリーの一つです。アプリケーションサーバで構築したシステム上で稼働している J2EE アプリケーションを主体に構成されている監視ツリーです。どの業務で問題が発生しているか、業務の視点でトラブルを監視できます。

業務処理プログラム

ビジネスロジックを実装した Enterprise Bean のことです。

業務用 IP アドレス

負荷分散機が仮想サーバにリクエストを送信するために使用する IP アドレスです。業務 LAN（業務用のサーバを配置した LAN）に接続されている NIC（ネットワークアダプタ）の IP アドレスを設定します。

共有スレッド数

Web コンテナ上にデプロイされている Web アプリケーションで共有されるスレッド数です。

組み込みデータベース

Developer に標準提供されているデータベースのことです。ローカルマシンでのアプリケーション開発、テストなどで利用できます。このデータベースは開発用途に限定されているため、本番環境で利用することはできません。

クライアントアプリケーション情報

性能解析トレースに出力される情報です。次に示す Enterprise Bean を呼び出す単位で設定される情報です。

- Web コンテナから EJB コンテナの呼び出し
- EJB クライアントから EJB コンテナの呼び出し
- EJB コンテナから EJB コンテナの呼び出し

クライアント定義ファイル

SOAP 通信基盤が使用するファイルです。SOAP メッセージを送信するとき、SOAP 通信基盤の動作を定義するために使用します。

クライアント認証

サーバが、クライアントから送られてきたクライアントの証明書を基に、信頼できるクライアントかどうかを確認することです。

クラスタ

ある共通の機能を提供するサーバの集合です。集合全体で 1 台のサーバとして運用・管理できます。

クラスタソフトウェア

システムの信頼性向上、稼働率向上を目的として、システムの切り替えを実現するプログラムです。

実行中のサーバシステムに障害が発生した場合、事前に待機しているサーバシステムに、直ちに自動で切り替えることができます。そのため、オペレータが特に意識することなく、システムの信頼性や稼働率を高められます。

アプリケーションサーバでは、クラスタソフトウェアを使用して、1:1 系切り替えシステム、N:1 リカバリシステム、相互系切り替えシステム、およびホスト単位管理モデルを対象とした系切り替えシステムを実現できます。

AIX または Linux を使用している場合は、クラスタソフトウェアとして HA モニタが使用できます。Windows の場合は、クラスタソフトウェアとして Windows Server Failover Cluster が使用できます。

グループ

通信層でメッセージをグルーピングするための単位です。メッセージはグループごとに管理されます。順序保証などの QoS は、グループの範囲で提供されます。

グローバル CORBA ネーミングサービス

CTM によってリクエストをスケジューリングする場合に、CTM ドメイン内に含まれる複数の J2EE サーバに登録されている業務処理プログラム (Stateless Session Bean) の情報を共有管理するネーミングサービスです。

グローバルセッション

セッションフェイルオーバー機能では、障害発生前の HTTP セッションと、障害発生後に引き継がれた HTTP セッションを一つのセッションとして扱います。これをグローバルセッションといいます。

グローバルセッション ID

グローバルセッションを管理する ID です。システム内でグローバルセッション情報を一意に識別するために、グローバルセッションに付けられます。

グローバルセッション情報

グローバルセッションが持つ情報をグローバルセッション情報といいます。グローバルセッション情報は、データベースセッションフェイルオーバー機能を使用する場合、データベースで管理されます。

グローバルトランザクション

J2EE サーバが提供するトランザクションマネージャによって管理されるトランザクションです。2 フェーズコミットプロトコルを使用できるので、トランザクションに複数のリソースを参加させることができます。

系

系とは、業務処理に必要なハードウェアのほか、実行するプログラムや通信機器を含めたシステム全体の総称です。系の種類には、実行系と待機系があります。

計画系切り替え

系切り替えの方法の一つで、オペレータが系を保守する際に、計画的に系を切り替える方法です。

計画停止

実行中のサーバプロセスまたはサーバスレッドを、実行終了後に停止する方法です。

系切り替え

システムに障害が発生した場合やシステムの保守のために、システムを切り替えることをいいます。系切り替えが行われると、待機系は業務処理を引き継いで実行系となります。一方、実行系は、さらに障害が発生した場合に備えて待機系となります。以降、系切り替えのたびに、実行と待機を交代して、どちらかの系で常に業務処理を実行するようにします。

系障害

サーバを除いた系に発生する障害を指します。系のハードウェア障害や HA モニタの障害などがあります。なお、サーバに発生する障害はサーバ障害といえます。

ゲートウェイ指定機能

クライアントと Web サーバとの間に、SSL アクセラレータや負荷分散機などのゲートウェイを配置している場合に、Web コンテナにゲートウェイ情報を通知し、welcome ファイルや Form 認証画面に正しくリダイレクトできるようにするための機能です。

検証処理

データに付加された電子署名が改ざんされていないかどうかを調べる処理です。

現用系

最初に実行系として動作させる系を現用系といえます。系切り替えによって、実行系が待機系になった場合でも、呼び方は変わりません。

公開〔サービスプラットフォーム〕

HCSC コンポーネントを HCSC サーバに追加（配備定義）して、システム構成定義を更新することです。

公開鍵

公開鍵暗号で使用する、データの暗号化または電子署名を検証するための鍵です。公開鍵は、通常ネットワーク上などで公開されています。データを暗号化して送信する場合、送信者は受信者の公開鍵を使用してデータを暗号化します。また、受信した電子署名を検証する場合は、受信者は送信者の公開鍵を使用して電子署名を検証します。

構造アクティビティ

分岐処理、並列処理、繰り返し処理など、ビジネスプロセス内の処理の構造を定義するためのアクティビティです。

コネクションスイーパー

一定の間隔でコネクションプール内の未使用コネクションを破棄する機能です。

コネクションプーリング

サーブレット、JSP、Enterprise Bean などの J2EE コンポーネントや、バッチアプリケーションからリソースへのアクセス量に応じて、リソースコネクションをメモリ上にプーリングする機能です。リソースコネクションには、JDBC コネクション、リソースアダプタのコネクションなどがあります。コネクションをプーリングしておくことで、アプリケーションからのリソース接続要求を高速に処理できます。

コマンドアダプタ

オペレーティングシステム上で動作する外部コマンドを起動し、実行結果を取得する場合に利用するアダプタです。

コマンドライン Java アプリケーション

コマンドラインから起動して使用する Java アプリケーションです。

コミットオプション

CMP フィールドのキャッシュ方法と Entity Bean の状態遷移のキャッシュモデルを指定するオプションです。

Full caching の場合、Entity Bean は前回のトランザクションコミット時と同じ状態で開始されます。

Caching の場合、Entity Bean はデータベースの最新状態と同じ状態で開始されます。

No caching の場合、Entity Bean はデータベースの最新状態と同じ状態で開始され、かつ、トランザクションコミット時に Entity Bean は非活性になります。

コンテキスト

Web アプリケーションをまとめた管理単位です。

コンテキストパス

「コンテキストルート」を参照してください。

コンテキストルート

コンテキストのルートパスです。コンテキスト内の Web アプリケーションにアクセスするときに URL 上に指定します。コンテキストパスとも呼びます。

コンテナ拡張ライブラリ

ユーザ作成ライブラリのインタフェースおよび機能を、J2EE コンテナ、Web コンテナ、またはバッチサーバから利用できるように拡張したライブラリです。

サーバ仮想化技術

一つのサーバを、あたかも複数のサーバであるかのように見せる技術です。この技術によって、1台の物理サーバのリソースを分割または統合して、何台もの仮想化したサーバが動作しているように見せたり、複数の物理サーバを1台のサーバのように見せたりできます。また、この仮想化されたサーバごとに、OS、アプリケーションなどを割り当てられます。

サーバ間転送

Reliable Messaging 同士、または Reliable Messaging と通信可能な他製品の間で、メッセージを転送することです。

サーバ管理コマンド

サーバで管理しているアプリケーションおよびリソースの設定をするためのコマンド群です。

サーバ起動・停止フック機能

J2EE サーバ、バッチサーバまたは Web サーバの起動・停止時に、コンテナ拡張ライブラリを使用するための初期化処理および停止処理を自動的に呼び出す機能です。J2EE サーバまたは Web サーバが異常終了した場合には機能しません。

サーバ指向ツリー

JP1/IM と連携している場合に統合スコープに表示する監視ツリーの一つです。サーバマシン（ホスト）を主体に構成されている監視ツリーです。

サーバ通信エージェント

仮想サーバマネージャから、仮想サーバ上のアプリケーションサーバをセットアップするために、仮想サーバ上で起動するエージェントプログラムです。

サーバ認証

クライアントが、サーバから送られてきたサーバの証明書を基に、信頼できるサーバかどうかを確認することです。

サービス [SOA]

業務と 1 対 1 に対応し、業務に必要な機能を再利用できるソフトウェア部品のことです。SOA では、サービスを組み合わせて業務システムを構築します。これによって、業務の変化に対して、システムを迅速に変更できます。

サービス [Windows]

Windows システムで、ユーザがログインしたときとは別に、システムを起動したときに自動的に開始するプロセスを作成して処理する機能です。メールを監視する Messenger サービス、at コマンドで登録されたタスクを一定時間ごとに実行する Schedule サービスなどがあります。

サービスアダプタ

サービスプラットフォームで、さまざまな種類のサービスと連携するための部品です。Web サービス、DB、メインフレームシステム、オンラインシステムといったさまざまなシステムと接続するアダプタ群を提供しています。また、必要に応じて、任意のプロトコルを持つシステムを呼び出すための汎用カスタムアダプタを作成することもできます。

サービス型ソフトウェア

ソフトウェアの機能のうち、ユーザが必要とするものだけをサービスとして配布し利用できるようにしたソフトウェアの配布形態です。SaaS (Software as a Service) ともいいます。

サービス部品

サービスアダプタおよび汎用カスタムアダプタから実行できる業務処理のことです。Web サービス、SessionBean、MDB (WS-R)、MDB (DB キュー)、およびデータベースの操作をサービス部品として利用できます。

サービス部品電文

サービス部品独自の電文フォーマットを持った電文です。サービス部品がデータベースの操作の場合、DB アダプタ電文といいます。

サービス閉塞

J2EE アプリケーションの運用中に特定の業務処理プログラムを入れ替えたい場合などに、システム全体は稼働させたまま、該当サービスだけを安全に閉塞させる機能です。

サービスユニット

J2EE サーバや Web サーバで構成される業務サービスを提供する閉じた部分系を、サービスユニットといいます。Smart Composer 機能では、サービスユニット単位でシステムを構築したり、一括起動や一括停止をしたりできます。

Smart Composer 機能を利用してシステムを構築するときの概念です。

サービスリクエスト

HCSC サーバ上の受付を呼び出すクライアントアプリケーションです。

受付の種別によって、使用するプロトコルや電文フォーマットが異なります。

サーブレットおよび JSP のサービスメソッド

javax.servlet.Servlet の service メソッド、および service メソッドから呼び出すメソッドです。service メソッドから呼び出すメソッドは、サーブレットの場合は do*メソッド (doGet, doDelete など)、JSP の場合は_jspService メソッドです。

サーブレットフィルタ

サーブレット/JSP へのリクエストや、サーブレット/JSP からのレスポンスを、フィルタリングする機能です。サーブレットフィルタによって、サーブレット/JSP の実行前のリクエスト、または実行後のレスポンスをラップして、データの変更、リソースに対するトレースの取得などができます。

アプリケーションサーバの機能を実現するためのサーブレットフィルタとしては、セッションフェイルオーバー用フィルタ、HTTP レスポンス圧縮用フィルタ、およびクライアント性能フィルタが提供されています。

サイジング

業務のシステム要件（性能要件と信頼性要件）を満たすマシンスペックとマシン数を決定するプロセスです。サイジングによって、業務システムで使用するマシン構成が決定できます。

作業フォルダ

サービスプラットフォームで、送受信するファイルを扱うために HCSC サーバが作成するフォルダです。

識別子

サーバ定義ファイル中から動作中のサーバの情報を取得するためのキーとして使用する文字列です。サーバにデプロイした SOAP アプリケーションのコンテキストルートから先頭の「/」を抜いた名称を使用します。

システム構成定義

HCSC サーバおよびクラスタのセットアップ情報と、HCSC コンポーネントを HCSC サーバおよびクラスタにどのように配備するかの情報が含まれる定義情報です。

HCSC サーバおよびクラスタのセットアップ情報は、運用環境で更新されます。開発環境では、HCSC サーバおよびクラスタに HCSC コンポーネントをどのように配備するかの情報を定義します。

システム構築者アカウント

管理ユニットに対する操作を実行できる権限を持つアカウントです。管理ユニットを操作するシステム構築者に対して、仮想サーバマネージャ管理者が与えます。

実行環境

サービスリクエストで受け付けた実行要求に応じて、HCSC サーバを介して適切なサービス部品を呼び出し、業務を実行する環境です。

実行系

業務処理を実行させる系（実行中のサーバ）を指します。

実行待ちキュー

同時実行スレッドの最大値を設定している場合に、実行スレッド数が最大に達したときに、リクエストをためておくキューのことです。

実行履歴

ビジネスプロセスのプロセスインスタンスの実行履歴と電文の実行履歴とがあります。ビジネスプロセスの実行状況や応答状況を確認したり、サービス部品の情報や電文の配送経路や配送状態を確認したりできます。

実行履歴情報テーブル

ビジネスプロセスや電文のプロセスインスタンスおよび電文の実行履歴を管理するテーブルです。

実パラメタ

アプリケーションサーバの定義ファイルに設定するパラメタです。Smart Composer 機能では、抽象パラメタを一つ設定することで、互いに関連のある複数の実パラメタに、一括で値を設定できます。

自動系切り替え

系切り替えの方法の一つで、クラスタソフトウェアが自動的に系を切り替える方法です。

自動生成クラス

cjwsimport コマンドおよび apt コマンドを実行したときに生成される Java クラスを表します。

条件分岐

Web 画面から入力された情報や、業務処理プログラムの処理結果によって、遷移先を分岐させる処理をいいます。

常設コネクション

コネクションを確立する契機となった要求が終了しても、コネクションを解放しないで利用し続ける確立方式です。

証明書

オープンな企業情報システム上で情報をやり取りするときに、通信相手が本人であることを証明するための電子的な情報です。暗号技術を用いることで、他人が成り済ませないようになっています。証明書は、認証局が発行します。

Web サービスセキュリティ機能では、X.509 証明書を扱えます。

ジョブ

JP1/AJS で扱うシステム運用の各作業のことです。

ジョブネット

JP1/AJS で扱うジョブの実行順序を関連づけたものです。

シングルサインオン

一度のログイン処理で、ユーザ ID が異なる複数のシステムをシームレスに利用できるようにする機能です。

シングルサインオン情報リポジトリ

統合ユーザ管理フレームワークのユーザマッピングを実行して、シングルサインオンでユーザ認証するための各システムの認証情報とマッピング情報を格納するリポジトリです。

シングルサインオンライブラリ

ユーザマッピング情報の格納されたシングルサインオン情報リポジトリの情報を基にユーザマッピングをして、シングルサインオンを実現するライブラリです。

推奨モード

11-00 以降の新機能が使用できるモードです。11-00 以降で廃止された機能は使用できません。

スキーマキャッシュ

スキーマ文書を再利用するために保存された grammar オブジェクトです。

スキーマ定義ファイルの指定などによって、メモリ上またはディスク上に保存されます。

スキーマコンパイラ

スキーマ文書を入力し、JAXB マッピングアノテーションを追加した JavaBean 様式の Java ソースコードを生成するプログラムです。スキーマ文書中にカスタムバインディング宣言によるユーザの指示がある場合は、指示に基づいてスキーマ要素を Java ソースコードに結び付けます。

スキーマジェネレータ

Java ソースファイルを入力し、クラスやフィールドなどの宣言部からスキーマ文書を生成するプログラムです。Java クラス中に JAXB マッピングアノテーションによるユーザの指示がある場合は、指示に基づいてスキーマコンポーネントへマッピングします。

スキーマ定義ファイル

キャッシュの対象とするスキーマ文書や、キャッシュの格納場所を指定するファイルです。

スキーマ文書

XML Schema の仕様に従って記述された、XML 文書内の論理的なデータ構造を規定した XML 文書です。

スケールアウト

システム全体の処理性能を向上させることを目的として、サーバの台数を増やすことをいいます。

スケールアップ

システム内のマシンのメモリや CPUなどを増強して、パフォーマンスを向上することをいいます。

スケールイン

システムの規模を縮小する場合などに、サーバの台数を減らすことをいいます。

スケジュールキュー

CTMによってリクエストをスケジューリングする場合に、リクエストをためておくキューです。J2EEアプリケーション単位で作成され、CTM デーモンによって管理されます。

スケジュール駆動受付

イベント発生スケジュールを設定しておき、そのスケジュールに従って発生したイベントを契機に処理を開始する機能（インタフェース）です。

スケジュールポリシー

CTMによってリクエストをスケジューリングする場合に、振り分ける基準を決めるポリシーです。負荷が軽い CTM デーモンに振り分ける方法と、リクエストを受け付けた CTM デーモンに優先的に処理させる方法のどちらかを選択できます。

スマートエージェント

グローバルトランザクションを使用する場合、または CTM を使用する場合に、動的な分散ディレクトリサービスを提供するプロセスです。

Management Server を利用する場合、スマートエージェントは論理サーバとして扱えます。CTM はスマートエージェントによって管理されます。

なお、グローバルトランザクションの場合でも、インプロセストランザクションサービスを利用するときは、スマートエージェントは不要です。

スレッドの非同期並行処理

Java EE 環境で非同期タイマ処理や非同期スレッド処理などのスレッドの非同期並行処理を実現する機能です。アプリケーションサーバでは、CommonJ が定めた Timer and Work Manager for Application Servers の仕様に基づいた API を提供しています。これによって、TimerManager を使用した非同期タイマ処理および WorkManager を使用した非同期スレッド処理ができます。

正規化

XML 文書の表現の違いをなくすために、ある一定の規則に従って XML 文書を変更する処理です。正規化によって変更されるのは記述方法だけです。XML 文書の意味は変更されません。

静的コンテンツ

HTML ファイルや画像ファイルなど、クライアントからの要求に対する応答に使用するファイルのうち、リクエスト内容に影響されないで常に同じ内容になるコンテンツのことです。

静的コンテンツキャッシュ機能

静的コンテンツをメモリにキャッシュする機能です。一度アクセスした静的コンテンツの内容をメモリにキャッシュすることで、二度目以降のアクセス時にファイルシステムへのアクセス回数を減らし、応答速度を向上できます。

性能解析トレース

アプリケーションサーバ、および BPM/ESB 基盤の各機能やアプリケーションの処理の性能を解析するためのトレース情報です。

性能解析トレースファイル

アプリケーションサーバで構築したシステムの性能を解析するためのトレース情報を CSV 形式で編集出力したテキストファイルです。

セキュリティアイデンティティ

J2EE サーバによるユーザ認証が成功した時に Web コンテナや EJB コンテナに伝達される認証情報です。

セキュリティトークン要素

WS-Security で規定されている、セキュリティトークンに関する要素です。Web サービスセキュリティ機能で扱うセキュリティトークン要素は、UsernameToken 要素と BinarySecurityToken 要素です。

セキュリティヘッダ

SOAP ヘッダに含まれる wsse:Security という名称の要素です。セキュリティヘッダはセキュリティ要素で構成されます。

セキュリティ要素

SOAP メッセージに含まれる、セキュリティに関する要素です。このマニュアルでは、セキュリティトークン要素、署名要素、暗号化要素などを総称してセキュリティ要素と呼びます。

セッション

Web アプリケーションに対する一連の作業を示す単位です。セッションは通常、Web クライアントから Web サーバへの複数のリクエストの集合から構成されます。

セッションフェイルオーバー機能

J2EE アプリケーション実行中の HttpSession オブジェクトに登録されたオブジェクトをセッション情報として管理し、J2EE サーバで障害が発生した場合には、管理しているセッション情報をほかの J2EE サーバに引き渡す機能です。J2EE サーバで障害が発生し、ほかの J2EE サーバにリクエストが転送された場合でも、障害発生前の状態で業務を続行できます。セッションフェイルオーバー機能として、セッション情報をデータベースで管理するデータベースセッションフェイルオーバー機能があります。

セットアップウィザード

対話形式のウィザードプログラムを使用してシステムを構築するための機能です。必要最低限の項目を設定するだけで、J2EE アプリケーションを実行するためのシステムを構築できます。できるだけ少ない手順で実行環境を構築したい場合にお勧めの機能です。ただし、セットアップウィザードで実行できるのは、1 台のマシンを対象にしたシステム構築だけです。

セントラルコンソール

JP1/IM と連携している場合に、システムで発生した事象を JP1 イベントによって集中管理することで、システムを統合管理するための仕組みです。

セントラルスコープ

JP1/IM と連携している場合に、システムの監視画面として管理者の目的に合わせた画面を提供することで、目的指向型のシステムを監視するための仕組みです。

占有スレッド数

利用できるスレッド数のうち、同時実行スレッド数制御の対象となるリクエストを確実に実行できるスレッド数です。Web コンテナ上にデプロイされている Web アプリケーションごと、または Web アプリケーション内の業務処理ロジックごとに指定できます。

関連セット

サービスリクエスタから送信された要求電文を一意に識別するために利用する文字列です。HCSC サーバには、サービスリクエスタから関連セットを含む要求電文が送信されます。サービス部品の HCSC サーバは、関連セットを含んだ応答電文をサービスリクエスタに返信します。その結果、サービスリクエスタは受信した応答電文が、どの要求電文に対する応答であるのかを一意に識別できます。

相互系切り替えシステム

クラスタソフトウェアを使用して実現できるシステムの一つです。アプリケーションサーバの実行系と待機系を 1:1 にする構成で、それぞれのアプリケーションサーバを実行系として稼働させながら、お互いの待機系にするシステムです。

相互スタンバイ

クラスタソフトウェアを使用した運用をする場合に、アプリケーションサーバの実行系と待機系を 1:1 にする構成で、それぞれのアプリケーションサーバを実行系として稼働させながら、お互いの待機系にすることです。

送信

サーバ間転送で、転送先キューに対してメッセージを転送することです。

(タ行)

待機系

障害に備えて待機させている系（待機中のサーバ）を指します。

ダイジェスト値

電子署名としてデータに付ける値です。ダイジェスト値は、署名の対象となる電子データに対して特定の計算をして算出します。

楕円曲線暗号

公開鍵暗号方式の一つです。解答が困難な、楕円曲線上の演算規則を利用しています。RSA 暗号と同程度の暗号強度をより短い鍵長で確保できます。

抽象パラメタ

互いに関連のあるパラメタを一つのパラメタとしてまとめたものです。Smart Composer 機能で使用します。Smart Composer 機能のコマンドを使用してパラメタを展開すると、一度に複数の実パラメタに値が展開されます。

直列化

プログラム内のオブジェクトを、SOAP メッセージで表現できる形式に変換することをいいます。

ディスクキャッシュ

ディスク上に保存されたスキーマキャッシュです。

データ暗号化鍵

送信中に第三者に内容を知られたくないデータを暗号化する場合に使用する鍵です。データ暗号化鍵そのものを暗号化する鍵は、データ暗号化鍵とは区別して「鍵暗号化鍵」と呼びます。

データソース

JDBC を使用してデータベースに接続する機能です。

データ変換

標準電文とサービス部品電文の電文フォーマットが異なる場合に、データ変換定義に従って、標準電文をサービス部品電文の電文フォーマットに変換することです。

データ変換基盤

データ変換定義に従って、要求電文・応答電文の電文フォーマットを変換する機能です。

データ変換定義

標準電文とサービス部品電文の電文フォーマットの相違を解消するためのデータ変換方法を定義したものです。標準電文とサービス部品電文の電文フォーマット定義ファイルの各要素をマッピングし、必要に応じてファンクションを設定して定義します。

データ要素

XML 文書の構成要素となるデータです。タグに挟まれた文字列やタグ属性の値を指します。

デプロイ

J2EE アプリケーションの場合、J2EE サーバ内にインポートした J2EE アプリケーションを、クライアントから実行可能な状態にすることです。

J2EE リソースアダプタの場合、J2EE サーバ内にインポートした J2EE リソースアダプタを、その J2EE サーバ上で動作するすべての J2EE アプリケーションから使用可能な状態にすることです。

デプロイ定義ファイル

Web サービスセキュリティ機能を利用するために必要な情報を読み込む処理を定義する XML ファイルです。デプロイ定義ファイルには、サーバ用のファイルとクライアント用のファイルの 2 種類があります。

展開ディレクトリ形式

EJB やサーブレットなどのアプリケーションの実体を、J2EE サーバの外部にある一定のルールに従ったファイル/ディレクトリに持つ J2EE アプリケーションの形式です。

転送先キュー

メッセージが転送されるキューです。

添付ファイル付き SOAP メッセージ

SOAP ヘッダや SOAP ボディに加えて、任意のファイルが添付された SOAP メッセージです。

電文フォーマット

要求電文および応答電文のデータ構造です。

サービスリクエストから HCSC サーバに送信される要求電文の電文フォーマットは、標準電文の電文フォーマットに合わせる必要があります。標準電文とサービス部品に実行要求するための電文（サービス部品電文）の電文フォーマットが異なる場合は、データ変換定義を作成して、電文フォーマットの相違を解消します。

電文フォーマット定義ファイル

電文の構造（電文フォーマット）を定義したファイルです。XML フォーマット定義ファイルとバイナリフォーマット定義ファイルとがあります。サービス部品の実行に利用する電文で XML 形式のデータを扱う場合は、XML フォーマット定義ファイルを、バイナリ形式（XML 形式以外）のデータを扱う場合は、バイナリフォーマット定義ファイルを利用します。

同期点処理

OpenTP1 が、トランザクションブランチに対してトランザクションを決着させるために実行する処理のことです。

同期点電文

OpenTP1 が、トランザクションブランチに対してトランザクションを決着させるための指示を格納した電文のことです。

統合コンソール

JP1/IM と連携している場合に、システムで発生した事象に関するエラーメッセージなどを表示する画面です。

統合スコープ

JP1/IM と連携している場合に、システムの監視画面として管理者の目的に合った監視ツリーを表示する画面です。

統合ネーミングスケジューラサーバ

CTM によるリクエストのスケジューリングをする場合に、J2EE サーバを配置しないで、グローバル CORBA ネーミングサービスを配置して使用するホストです。統合ネーミングスケジューラサーバのレプリカを作成することで、可用性を向上できます。なお、統合ネーミングスケジューラサーバにも CTM デーモンは必要です。

統合ネーミングスケジューラサーバモデル

CTM によるリクエストのスケジューリングをする場合に、J2EE サーバを配置しないでグローバル CORBA ネーミングサービスを配置するホストを作成するシステム構成モデルです。

統合ユーザ管理

アプリケーションサーバで構築したシステムにログインするユーザを統合管理するための仕組みです。ユーザ認証を実現する統合ユーザ管理フレームワークが使用できます。また、運用管理ポータルを使用して、リポジトリ管理およびリソース監視を実現できます。

統合ユーザ管理のコンフィグレーションファイル

JAAS 対応ユーザ管理、およびシングルサインオンの機能を使用するための設定ファイル (ua.conf) です。

統合ユーザ管理フレームワーク

統合ユーザ管理でのユーザ認証を実現するフレームワークです。Java 標準仕様 (JAAS) に従った API が提供されています。

動作定義ファイル

共通定義ファイルおよびプロセス別の定義ファイルの総称です。ログ出力やタイムアウトなど、JAX-WS エンジンまたは JAX-RS エンジンの動作を設定する場合に定義します。

動的コンテンツ

サブレットや JSP のように、クライアントからの要求に応じて動的に生成されるコンテンツのことです。

トラストストア

信頼できる証明書を格納したキーストアです。サーバ認証をする場合に、このトラストストアに格納されている証明書を基に、そのサーバが信頼できるかどうか判断されます。

トランザクショングローバル識別子

システムノード ID とグローバルトランザクション番号 (グローバルトランザクションを管理するためにシステムで一意的に付けた番号) を合わせた識別子のことです。

トランザクションサービス

グローバルトランザクションを使用する場合に、トランザクションを管理するサービスです。TPBroker OTS によって提供されるサービス全体を表します。トランザクションサービスは、J2EE サーバのインプロセスで起動されます。

トランザクション識別子

トランザクションを一意的に識別するための識別子のことです。

トランザクションマネージャ

トランザクションを管理する機能です。アプリケーションサーバが提供しています。グローバルトランザクションの場合は、トランザクションマネージャのバックエンドで TPBroker OTS が使用されています。

トランスレット

XSLTC トランスフォーマを構成するコンパイラが XSLT スタイルシートを解析してメモリ上に生成する、Java のバイトコードです。XML 文書の変換処理を高速に実行できます。

トレース共通ライブラリ

トレース採取用のライブラリです。複数の製品で共通のライブラリを利用するので、各製品のトレース形式が統一できます。

トレース取得ポイント

アプリケーションサーバで構築したシステムの各機能レイヤで PRF トレースを出力するポイントのことです。PRF トレース取得レベルの指定によって、トレース取得ポイントの数は異なります。

(ナ行)

名前空間

XML 文書内で同じ名前を持つ要素や属性が、異なる意味を表すために定義する識別子です。

認証局

証明書を発行する、信頼できる第三者機関です。CA ともいいます。

ネーミング切り替え

JNDI を介して EJB ホームオブジェクトの登録、削除、検索をする時に、JNDI が接続する CORBA ネーミングサービスを切り替えることです。

ネーミングサービス

オブジェクトに名前を付けて格納場所を管理しておくことで、格納先を知らなくても名前からそのオブジェクトを利用できるようにするサービスです。アプリケーションサーバでは CORBA ネーミングサービスを利用します。

Management Server では、ネーミングサービスを論理サーバとして扱えます。

ノード

データ変換定義画面で、ツリービューアに表示される各要素のことです。データ変換の元になる変換元ノードと、変換先になる変換先ノードがあります。

(ハ行)

パーセントエンコード

パーセントエンコードとは、パーセント記号とそのあとに続く 2 文字の 16 進数で、URL に使用できない日本語などの文字を表現することです。

(例) いろは → %E3%81%84%E3%82%8D%E3%81%AF

バイナリフォーマット定義ファイル

バイナリ形式（XML 形式以外）のデータを扱う場合に利用する電文フォーマット定義ファイルです。XML スキーマファイルとして作成します。バイナリ形式のデータ内の値の格納形式を定義し、定義した情報を XML スキーマファイルに付加したファイル（拡張子：.fdx）です。

ハイパーバイザ

仮想化ソフトウェアが仮想サーバを実現するための制御プログラムで、ゲスト OS のリソース管理や、エミュレーション処理を実施します。ハードウェア上で直接動作し、仮想化環境で複数 OS を稼働・制御します。

ハイパーバイザ管理ソフトウェア

ハイパーバイザを一括管理するツールです。ハイパーバイザの種類ごとに用意します。

配備

HCSC コンポーネントを適切な HCSC サーバに配置することです。開発環境で作成した HCSC コンポーネントは、運用環境を利用して実行環境（HCSC サーバ）に配備します。

配備定義

開発環境で、HCSC コンポーネントを HCSC サーバおよびクラスタにどのように配備するか定義し、システム構成定義を更新することです。運用環境から HCSC コンポーネントを配備するときには、開発環境で配備定義したシステム構成定義の内容に従って配備します。

バインディング

JAXB によって行われるスキーマ文書で定義された XML 文書と、Java オブジェクトの間のデータ対応付けを指します。

バインド先アドレス設定機能

NIO HTTP サーバでバインドする IP アドレスを設定する機能です。複数のネットワークインタフェースを持つホストで、特定の IP アドレスでのみ HTTP リクエストを受信したい場合に使用します。

パッケージング

開発環境で作成した HCSC コンポーネントを、実行環境に配備できるように EAR ファイルに組み立てることです。

バッチアプリケーション

バッチ処理を実装した Java アプリケーションです。バッチ実行コマンドを使用して、バッチサーバ上で実行します。バッチ実行コマンドを JP1/AJS のジョブとして定義しておくと、JP1/AJS からバッチアプリケーションを実行できます。

バッチサーバ

バッチアプリケーションを実行するためのサーバです。バッチアプリケーションの実行機能のほかに、バッチアプリケーションからデータベースに接続したり、EJB にアクセスしたりする機能も提供しています。

パフォーマンストレーサ

PRF デーモンのことです。

Management Server では、パフォーマンストレーサを論理サーバとして扱えます。

ハンドラ

ロガーから受け取ったアプリケーションのログをファイルやコンソールに出力する、Java ロギング API の Handler オブジェクトです。J2EE アプリケーション、バッチアプリケーション、EJB クライアントアプリケーションで使用できます。

アプリケーションサーバでは、トレース共通ライブラリ形式のログをファイルに出力するためのファイルハンドラである、CJMessageFileHandler を提供しています。

ハンドラフレームワーク

SOAP メッセージを送受信するときに、JAX-WS エンジン内で処理をインターセプトして、処理を追加する機能（フレームワーク）です。Web サービスクライアントと Web サービス実装クラスの間複数のハンドラを追加し、Web サービスの機能を拡張できます。

汎用カスタムアダプタ

任意のプロトコルを持つシステムのサービス部品を呼び出すアダプタです。

サービスプラットフォームが提供するカスタムアダプタ開発フレームワークを使用して、ユーザが任意のプロトコルに対応したアダプタを開発できます。

非永続化 [Reliable Messaging]

不揮発性の記憶媒体を使用しないで、揮発性のメモリだけにデータを保存して、処理を実施することです。

非永続版リソースアダプタ [Reliable Messaging]

データベースによるメッセージの永続化をしない Reliable Messaging のリソースアダプタのことです。非永続なローカルキューだけが利用できます。

非公開 [サービスプラットフォーム]

HCSC コンポーネントを HCSC サーバから削除（配備定義を削除）して、システム構成定義を更新することです。

ビジネスインタフェース

Enterprise Bean を呼び出すためのビジネスメソッドを定義するインタフェースです。

ビジネスプロセス

複数のサービス部品の処理の順番や条件などを定義して、一連の業務の流れとして定義したものです。サービスプラットフォームの開発環境では、複数のアクティビティを画面上に配置し、コネクションで連結して定義します。

ビジネスプロセス基盤

ビジネスプロセスの定義に従って、適切なサービス部品を呼び出すための機能です。

非常設コネクション

コネクションを確立する契機となった要求の処理が終了した場合に、そのつどコネクションを解放する確立方式です。

非保護区

メソッドキャンセルができる領域を指します。ユーザプログラムのコードが非保護区に該当します。メソッドキャンセルとは、J2EE アプリケーション実行時間の監視で提供される機能の一つです。また、バッチ強制停止コマンドでも使用されます。

秘密鍵

公開鍵暗号で使用する、データの復号化または電子署名を作成するための鍵 (private key) です。非公開鍵ともいいます。秘密鍵は、その所有者が安全に管理します。

暗号化されたデータを受信した場合、受信者は自分の秘密鍵を使用してデータを復号化します。また、送信するデータに電子署名を付加する場合は、送信者は自分の秘密鍵を使用し電子署名を作成します。

標準受付

サービスリクエスタからのサービス部品の実行要求を受け付ける固定のインタフェースです。HCSC サーバの機能として提供しています。標準受付を開始すると、サービスリクエスタからの要求電文を受け付けられる状態になります。

同期受付 (Web サービス / SessionBean) および非同期受付 (MDB (WS-R) / MDB (DB キュー)) の要求を受け付けることができます。

標準受付 (MDB (DB キュー))

MDB (DB キュー) を使用したシステムでサービス部品呼び出し要求を受け付ける機能 (インタフェース) です。

標準受付 (MDB (WS-R))

MDB (WS-R) を使用したシステムでサービス部品呼び出し要求を受け付ける機能 (インタフェース) です。

標準受付 (SessionBean)

SessionBean を使用したシステムでサービス部品呼び出し要求を受け付ける機能 (インタフェース) です。

標準受付 (Web サービス)

Web サービス (SOAP 通信) を使用したシステムでサービス部品呼び出し要求を受け付ける機能 (インタフェース) です。

標準電文 (標準電文フォーマット)

ビジネスプロセス内で共通に使用する電文 (電文フォーマット) です。電文フォーマットが異なるサービスと連携する際は、標準電文の電文形式をデータ変換で接続先サービスに合わせて変更して連携することで、ビジネスプロセス内で共通の電文として使用することができます。

標準ログインモジュール

統合ユーザ管理のユーザ認証処理で使用するログインモジュールです。javax.security.auth.spi に含まれる LoginModule インタフェースの実装クラスです。

次のログインモジュールがあります。

- WebPasswordLoginModule
パスワードを使用してユーザを認証します。
- WebCertificateLoginModule
クライアント証明書を使用してユーザを認証します。
- WebPasswordLDAPLoginModule
LDAP ディレクトリサーバの認証機能を使用してユーザを認証します。
- WebPasswordJDBCLoginModule
RDB に格納された情報を使用してユーザを認証します。
- DelegationLoginModule
カスタムログインモジュールを呼び出します。
- WebSSOLoginModule
シングルサインオンをするときに、ほかのログインモジュールを呼び出します。

ファイルアダプタ

サービスプラットフォームの実行環境から HCSC サーバ上のローカルディスクに対して直接ファイルの入出力をする場合に利用するアダプタです。

ファイルイベント受付

監視対象のフォルダ内にファイルが作成されたことをイベントとして受け付けて、処理を開始する機能（インタフェース）です。

ファイルイベント連携

特定のフォルダを監視し、ファイルの作成をファイルイベントとして検知することで、サービスプラットフォームにファイルイベントを通知する機能（インタフェース）です。

ファイル操作アダプタ

ファイルのレイアウト変換、文字コード変換、複製、圧縮、伸張、およびファイルやフォルダの削除をするためのアダプタです。

ファンクション

データ変換を定義する場合に、変換元ノードの値を加工して変換先ノードにマッピングする場合に使用するときの加工の方法を定義するものです。

文字列や数値を変換するファンクション、ノードの名称を取得するファンクション、条件による処理の選択や繰り返しを定義するファンクションなどがあります。

負荷分散機

Web ブラウザなどからのリクエストを一元的に受け付けて、同等の機能を持つ複数のサーバに転送して各サーバの負荷を分散させるための装置です。

負荷分散機の仮想サーバ

負荷分散機上で、リクエストの受け口となる仮想的なサーバを表すオブジェクトのことです。仮想化システムの管理ユニットごとに一つ作成されます。

物理コネクション

接続先リソースのコネクションです。通常は J2EE コンテナが操作します。リソースアダプタの場合は、`javax.resource.spi.ManagedConnection`、JDBC の場合は `javax.sql.XAConnection` に該当します。

物理ティア

同一のデプロイメント（プロセスの配置、J2EE アプリケーションやリソースアダプタのデプロイ、定義）を適用するサーバマシンの集合を物理ティアといいます。

Smart Composer 機能を利用してシステムを構築するときの概念です。

物理マシン

物理的なコンピュータのことです。

フレームワーク

ある機能やサービスを規定するための枠組みです。フレームワークを使用することで、業務で使用するアプリケーションを容易に作成できます。

プロセスインスタンス

ビジネスプロセスで実行している業務の一つの実体です。ワークフローの案件に相当します。

プロセス別の定義ファイル

プロセス固有の動作を設定する必要がある場合に作成する定義ファイルです。

フロント EJB

リクエストの受け口となる Enterprise Bean をフロント EJB といいます。

別名

JNDI 名前空間に登録する EJB ホームオブジェクトリファレンスや、J2EE リソースに付けられる任意の名前です。ユーザ指定名前空間機能を使用している場合、別名を付けられます。Optional Name ともいいます。

変換ファンクション

カスタムファンクションから呼び出す Java プログラムのことです。

変換ファンクション定義ファイル

カスタムファンクションから呼び出す変換ファンクションの構成を定義したファイルです。

保護区

メソッドキャンセルができない領域を指します。J2EE サービスのソースなどが保護区に該当します。メソッドキャンセルとは、J2EE アプリケーション実行時間の監視で提供される機能の一つです。また、バッチ強制停止コマンドでも使用されます。

ホスト単位管理モデル

Smart Composer 機能または運用管理ポータルでシステムを構築している場合に、Management Server をアプリケーションサーバと同じホストに配置するシステム構成モデルです。

ホスト単位管理モデルを対象とした系切り替えシステム

クラスタソフトウェアを使用して実現できるシステムの一つです。複数の実行系アプリケーションサーバと 1 台の待機系アプリケーションサーバを配置して、それぞれに Management Server および運用管理エージェントを配置したシステムです。

マーシャル

JAXB API を使用して Java のオブジェクトを XML 文書に保存することをマーシャルといいます。Java のオブジェクトを XML 文書にシリアライズすることです。

マッピング [XML Processor]

JAXB によって行われるバインディングと同じ意味です。Java クラスからスキーマ文書への対応付けの場合、「バインディング」ではなく「マッピング」と呼ぶ場合があります。

マッピング [サービスプラットフォーム]

データ変換を定義する場合に、変換元と変換先のノードを連結することです。マッピングの始点をマッピング元、終点をマッピング先といいます。

未決着トランザクション

決着していない、仕掛かり中のトランザクションです。

明示管理ヒープ機能

Java オブジェクトの配置先として、Explicit ヒープを使用する機能です。Explicit ヒープは Java ヒープ外にある、FullGC の対象にならない領域です。明示管理ヒープ機能を使用することによって、FullGC の発生を抑止できます。

メールアダプタ

SMTP プロトコルをサポートしたメールサーバをサービスプラットフォーム上でサービス部品として呼び出す場合に利用するアダプタです。

メソッドキャンセル機能

J2EE アプリケーション実行時間の監視機能の機能の一つです。メソッドタイムアウト機能でタイムアウトが通知されたあと、メソッドのキャンセルを実施する機能です。キャンセル時にデータベースにアクセスしている場合は、トランザクションの強制決着もします。

メソッドタイムアウト機能

J2EE アプリケーション実行時間の監視機能の機能の一つです。監視基盤にあるリクエストのうち、一定時間内に終了しなかったメソッド処理を、タイムアウトとしてユーザに通知します。

メソッドトレース

障害が発生し、原因の究明が困難な場合に必要な情報です。

メッセージ

JMS インタフェースによって実装されたアプリケーション間で送受信される、データの単位です。

Reliable Messaging のアプリケーションが使用するメッセージは、Message インタフェース、およびそのサブインタフェースによって実装されます。

メッセージインフロー

メッセージプロバイダがアプリケーションサーバ上のメッセージエンドポイントにメッセージを配送する場合の規約です。Connector 1.5 の Inbound の通信モデルを使用する場合に使用できる機能です。

メッセージプロバイダには EIS などが該当します。アプリケーションサーバ上のメッセージエンドポイントには Message-driven Bean が該当します。

メッセージの受信

サーバ間転送によるメッセージを受け付けることです。

メッセージの転送

複数のシステム間でメッセージの送受信を行うことです。

メッセージング

クライアントとサーバ間で任意のデータをメッセージとして送受信することをいいます。メッセージング形態の SOAP アプリケーションでは、クライアントとサーバ間のデータの送受信に、XML 形式のデータである SOAP メッセージを使用します。

メッセージング基盤

サービスアダプタの定義に従って適切なサービス部品を呼び出す機能です。

メモリキャッシュ

メモリ上に保存されたスキーマキャッシュです。

面数

ログファイルを保持する数です。ログファイルは面数分作成され、循環して使用されます。

メンバリソースアダプタ

コネクションプールをクラスタ構成にしている場合に、データベースノードに接続するリソースアダプタです。メンバリソースアダプタは、必ずルートリソースアダプタを経由してアクセスされます。旧バージョンとの互換用機能です。

面番号

メッセージログやトレースがファイルサイズの上限まで出力された場合に、システムはファイル名称中の通し番号を一つインクリメントして、新しいファイル名称で出力を開始します。この通し番号を面番号といいます。

このように出力されるファイルの数を面数といいます。

文字コード変換 UOC

文字コード変換用の外部プログラムのことです。文字コード変換 UOC は、サービスプラットフォームが提供する jar ファイルを使用して開発します。

(ヤ行)

ユーザ拡張性能解析トレース

アプリケーションの処理性能を解析するためのトレース情報です。

ユーザ指定名前空間機能

JNDI 名前空間に登録する EJB ホームオブジェクトリファレンスや J2EE リソースの名前に、ユーザが任意の別名を付けられる機能です。別名を付与することによって、CTM によってリクエストを振り分けたり、負荷分散機やロードバランサによって負荷分散したりする場合に、サーバ名やアプリケーション名に依存しない名前で見つけられるようになります。

ユーザ情報

アプリケーションサーバで構築したシステムにユーザがログインするための情報です。

ユーザ情報リポジトリ

統合ユーザ管理をする場合に、ログイン時のユーザ認証に使用する情報を格納するリポジトリです。LDAP ディレクトリサーバまたはデータベース (RDB) が使用できます。

ユーザスレッド

ユーザがサーブレットおよび JSP の中で明示して生成するスレッドのことです。

ユーザ定義受付

サービスリクエスタからの実行要求を受け付けるための機能 (インタフェース) です。HCSC サーバに含まれる標準受付とは異なり、ユーザが任意のインタフェースを定義できます。定義したユーザ定義受付を HCSC サーバに配備して開始すると、サービスリクエスタからの要求電文を受け付けられる状態になります。

ユーザ定義受付ランタイム定義ファイル

SOAP 受付の情報を定義するファイル (cscurcptnconfig.properties) です。J2SE のプロパティ形式のファイルとして作成します。

同時実行スレッドの最大値、占有スレッド数および実行待ちキューのサイズを定義できます。

ユーザ電文

サービスリクエスタから送信される要求電文です。

ユーザ認証ライブラリ

LDAP ディレクトリサーバで構築されたユーザ情報リポジトリの情報を基にユーザ認証をして、認証したユーザの情報をアプリケーションに提供する、JAAS 対応ユーザ管理用ライブラリです。

ユーザプロパティファイル

usrconf.properties のことです。J2EE サーバ、Web コンテナサーバまたはサーバ管理コマンドを実行する JavaVM のシステムプロパティを指定します。なお、J2EE サーバ、Web コンテナサーバおよびサーバ管理コマンドで使用するユーザプロパティファイルは、それぞれ格納先および指定できるキーが異なります。

ユーザマッピング

異なるユーザ情報リポジトリに格納した同じユーザについての情報を対応づけることです。

ユーザログ

J2EE アプリケーション、バッチアプリケーション、または EJB クライアントアプリケーションが出力するログのことです。

要求電文

サービス部品の実行を要求するための電文です。要求電文には、サービスリクエスタから HCSC サーバに送信される電文と HCSC サーバ内のアダプタからサービス部品に送信される電文があります。

要求リソース

性能要件を満たすために必要なマシンリソース（CPU、メモリ、ディスク容量など）のことです。

予備系

最初に待機系として起動する系を予備系といいます。系切り替えによって、待機系が実行系になった場合でも、呼び方は変わりません。

(ラ行)

ライトランザクション

ローカルランザクションを最適化した状態で使用できる機能です。

ライブマイグレーション

仮想サーバで動作するゲスト OS やソフトウェアを停止することなく、ほかの物理マシンへ物理マシンごと移動させる技術・サービスのことです。

ライブラリ JAR

JAR ファイル形式でパッケージされた、共通ライブラリです。J2EE アプリケーション内の J2EE コンポーネントから共通に使用できます。

ラウンドロビン検索

複数の CORBA ネーミングサービス上にある同一名称の EJB ホームオブジェクトを、ラウンドロビンポリシーに従ってルックアップする検索機能のことです。

ラウンドロビンポリシー

複数の CORBA ネーミングサービス上にある同一名称の EJB ホームオブジェクトをルックアップする場合に適用されるポリシーです。

EJB ホームオブジェクトリファレンスをラウンドロビン検索によって取得できるので、EJB クライアントでは意識しないで J2EE サーバに送信するリクエストの負荷分散を実現できます。

リカバリ専用サーバ

クラスタソフトウェアを使用して N:1 リカバリシステムを構築している場合に待機系として機能するアプリケーションサーバです。

障害が発生した実行系のアプリケーションサーバに未決着のトランザクションがあった場合に、系が切り替えられ、該当するトランザクションを解決してリソースを解放します。

リクエストサービス

サービスリクエストからの要求電文を受け付けるための機能（インタフェース）です。HCSC サーバに含まれる機能です。リクエストサービスを開始すると、サービスリクエストからの要求電文を受け付けられる状態になります。

同期受付（Web サービス / SessionBean）および非同期受付（MDB（WS-R） / MDB（DB キュー））の要求を受け付けることができます。

リクエスト受付

標準受付およびユーザ定義受付の総称です。サービスリクエストからの実行要求を受け付けるための機能（インタフェース）です。

リクエスト処理スレッド

Web ブラウザなどのクライアントからのリクエストを受け付けて処理するために Web サーバで生成されるスレッドです。インプロセス HTTP サーバの場合は、Web コンテナで生成されます。

リクエストトレース

メッセージング基盤での、標準受付、ビジネスプロセス受付、またはサーバ間転送受付で受け付けたリクエストの BP やサービスアダプタの呼び出し先やその結果を把握するための情報です。

リクエストのスケジューリング

クライアントからのリクエストを実行するサーバを負荷に応じて的確に振り分けたり、サーバに送信するリクエストの数を制限したりする機能です。

リソースアダプタ

J2EE Connector Architecture によって、J2EE サーバまたはバッチサーバと、EIS を接続するための接続機能です。J2EE Connector Architecture (JCA) Specification によって仕様が規定されます。

アプリケーションサーバで構築したシステムでは、データベースに接続するためのリソースアダプタである DB Connector および DB Connector for Reliable Messaging を提供しています。

また、OpenTP1 の SPP と接続するためのリソースアダプタである TP1 Connector, TP1/Message Queue と接続するためのリソースアダプタである TP1/Message Queue - Access, データベース上に実現したキューに接続するためのリソースアダプタである Reliable Messaging も使用できます。

リソースクラス

Web リソースの実装に当たるプログラムです。Web リソースの開発では、リソースクラス、プロバイダおよび Application を利用して、Web リソースの実装を記述します。

リソースマネージャ

リソースを管理する機能です。DBMS などが該当します。

リデプロイ機能

J2EE アプリケーションを入れ替えるときに使用する機能です。リデプロイ機能による入れ替えは、J2EE アプリケーションのテスト時などに、修正した J2EE アプリケーションと動作中の J2EE アプリケーションを入れ替えたいときに使用します。

リバースプロキシサーバ

インターネットなどの外部ネットワークとアプリケーションサーバが配置されている内部ネットワークの間の DMZ に配置され、外部ネットワークからのリクエストを内部ネットワークに中継するための機能を持つ Web サーバです。

アプリケーションサーバでは、HTTP Server をリバースプロキシサーバとして使用できます。リバースプロキシサーバには、リバースプロキシモジュールが組み込まれて動作します。

リポジトリ

定義した HCSC コンポーネントやシステム構成定義を格納するディレクトリです。格納した情報は、リポジトリの管理機能（リポジトリのインポート/エクスポート機能）を利用して、開発環境と運用環境との間で受け渡します。

リモートインタフェース

Java RMI のインタフェース規定に従い、RMI-IIOP 通信によって Enterprise Bean の呼び出しをするインタフェースです。

リモートホームインタフェースとリモートビジネスインタフェースが含まれます。

リロード機能

開始状態にあるアプリケーションを停止させないで、アプリケーションを構成するクラスや JSP を、少ない手順で動的に入れ替える機能です。

リロード機能は、展開ディレクトリ形式でデプロイされたアプリケーションに対して実行できます。

ルートアプリケーション情報

性能解析トレースに出力される情報です。イベントで一連の処理の先頭になるプロセスで取得した情報です。

ルートコンテキスト

コンテキストルートが空文字（コンテキストルートに名称が指定されていない）の、WAR ファイル内のルートパスです。

ルートルソースアダプタ

コネクションプールをクラスタ構成にしている場合に、メンバリソースアダプタを束ね、ユーザプログラムからのリクエストを受け付けるアダプタのことです。旧バージョンとの互換用機能です。

レルム

統合ユーザ管理をしているシステムで、同一の認証ポリシーを適用する範囲のことです。

ローカルインタフェース

Enterprise Bean の呼び出しを Java のメソッド呼び出しで実行するインタフェースです。通信は発生しません。

ローカルホームインタフェースとローカルビジネスインタフェースが含まれます。

ローカルトランザクション

接続先のリソースマネージャによって管理されるトランザクションです。単一のリソースだけがトランザクションに参加できます。

ロール

コンテキストに対し、アクセス制御するとき使用される単位です。ロールはグループごとに定義されます。また、アクセス制御するコンテキストについては、そのコンテキストにアクセ

スするのに必要なロールが定義されます。アクセスしたユーザの持つロールがコンテキストに定義されたロールと一致した場合、そのコンテキストへのアクセスは成功します。

ロガー

J2EE アプリケーション、バッチアプリケーション、または EJB クライアントアプリケーションのログを取得する、Java ロギング API の Logger オブジェクトです。

論理コネクション

サーブレットや Enterprise Bean などの J2EE コンポーネントが直接操作するコネクションです。

リソースアダプタの場合は `javax.resource.cci.Connection`、JDBC の場合は `java.sql.Connection` に該当します。

論理サーバ

Management Server の運用管理の対象になる、サーバまたはクラスタです。サーバには、Web サーバ、J2EE サーバなどがあります。クラスタとは、ある共通の機能を提供するサーバの集合です。

論理ネーミングサービス

JNDI がラウンドロビン検索の対象にする複数の CORBA ネーミングサービスのことです。

論理ユーザサーバ

任意のサービスやプロセスを Management Server の管理対象として定義した論理サーバです。Management Server で起動・停止したり、ステータス監視したりできるようになります。

索引

数字

1:1 系切り替えシステム [用語解説] 7

A

Application Development Plug-in [用語解説] 7

Application Server [用語解説] 7

B

Batch Job Execution Server [用語解説] 7

Bean-Managed Persistence [用語解説] 7

Bean-Managed Transaction [用語解説] 7

BJEX [用語解説] 7

BMP Entity Bean [用語解説] 8

BMP [用語解説] 7

BMT [用語解説] 8

BPEL [用語解説] 8

BPMN [用語解説] 8

Business Process Execution Language [用語解説]
8

Business Process Modeling Notation [用語解説]
8

C

CA [用語解説] 8

Certificate Authority [用語解説] 8

CJMSP ブローカー [用語解説] 9

CJMSP リソースアダプタ [用語解説] 9

Client [用語解説] 9

CMP Entity Bean [用語解説] 9

CMP [用語解説] 9

CMT [用語解説] 9

Component Container 管理者 [用語解説] 9

Component Container [用語解説] 9

Component Transaction Monitor [用語解説] 9

Container-Managed Persistence [用語解説] 10

Container-Managed Transaction [用語解説] 10

Cookie スイッチング機能 [用語解説] 10

CORBA ネーミングサービス [用語解説] 10

cosminexus.xml [用語解説] 10

CTM デーモン [用語解説] 10

CTM ドメインマネージャ [用語解説] 10

CTM ドメイン [用語解説] 10

CTM [用語解説] 10

CTM レギュレータ [用語解説] 11

D

DB Connector [用語解説] 11

DB アダプタ [用語解説] 11

DB キュー [用語解説] 11

DD [用語解説] 11

Deployment Descriptor [用語解説] 11

Detached 署名 [用語解説] 11

Developer [用語解説] 11

DII [用語解説] 11

DI ターゲット [用語解説] 11

document/literal [用語解説] 12

Document Object Model [用語解説] 12

Document Type Definition [用語解説] 12

DOM API [用語解説] 12

DOM ツリー [用語解説] 12

DOM [用語解説] 12

DTD [用語解説] 12

Dynamic Invocation Interface [用語解説] 12

E

EADs クライアント [用語解説] 13

EADs サーバ [用語解説] 13

EADs [用語解説] 12

EAR ファイル [用語解説] 13

Eclipse Web Tools Platform [用語解説] 13

Eclipse [用語解説] 13

EIS [用語解説] 13

EJB クライアントアプリケーション [用語解説] 13

EJB クライアント [用語解説] 13

EJB コンテナ [用語解説] 14
EJB タイマ [用語解説] 14
EJB-JAR ファイル [用語解説] 13
Enterprise Bean [用語解説] 14
Entity Bean [用語解説] 14
EntityManager [用語解説] 14
Enveloped 署名 [用語解説] 14
Enveloping 署名 [用語解説] 14
Explicit ヒープ [用語解説] 14
Extensible Stylesheet Language [用語解説] 14

F

FIFO [用語解説] 14
FTP アダプタ [用語解説] 15
FTP インバウンドアダプタ [用語解説] 15
FTP 受付 [用語解説] 15
FTP クライアント [用語解説] 15
FTP サーバ [用語解説] 15
FTP 連携 [用語解説] 15

G

GC 制御機能 [用語解説] 15
grammar オブジェクト [用語解説] 15
gRPC アダプタ [用語解説] 16
gRPC インバウンドアダプタ [用語解説] 16
gRPC インバウンド連携 [用語解説] 16
gRPC 受付 [用語解説] 16

H

HA モニタ [用語解説] 16
HCSCTE [用語解説] 17
HCSC コンポーネントの検証 [用語解説] 17
HCSC コンポーネント [用語解説] 17
HCSC サーバ構成定義ファイル [用語解説] 17
HCSC サーバセットアップ定義ファイル [用語解説] 18
HCSC サーバ [用語解説] 17
HCSC サーバランタイム定義ファイル [用語解説] 18
HCSC [用語解説] 16

HCSC-Business Process [用語解説] 16
HCSC-Data Transform [用語解説] 16
HCSC-Manager コマンド共通定義ファイル [用語解説] 17
HCSC-Manager 定義ファイル [用語解説] 17
HCSC-Manager [用語解説] 16
HCSC-Messaging [用語解説] 17
HTTP アダプタ [用語解説] 18
HTTP 受付 [用語解説] 18
HTTP セッション管理用オブジェクト [用語解説] 18
HTTP セッションに格納するオブジェクト [用語解説] 18
HTTP セッションに関するオブジェクト [用語解説] 19
HTTP セッション [用語解説] 18
HTTP レスポンス圧縮機能 [用語解説] 19
Hyper-V [用語解説] 19

I

IANA [用語解説] 19
IDE [用語解説] 19
Inbound [用語解説] 19
Integrated Development Environment [用語解説] 19
Internet Assigned Numbers Authority [用語解説] 19

J

J2EE アプリケーション実行時間の監視機能 [用語解説] 20
J2EE アプリケーションの強制停止 [用語解説] 20
J2EE アプリケーションの通常停止 [用語解説] 20
J2EE アプリケーション [用語解説] 19
J2EE コンテナ [用語解説] 20
J2EE コンポーネント [用語解説] 20
J2EE サーバ [用語解説] 20
J2EE サービス [用語解説] 20
J2EE リソースアダプタ [用語解説] 20
J2EE リソース [用語解説] 20
jaas.conf [用語解説] 20
JAAS のコンフィグレーションファイル [用語解説] 21

JAAS ログインモジュール〔用語解説〕 21
 JAR ファイル〔用語解説〕 21
 Java Batch〔用語解説〕 21
 JavaBeans〔用語解説〕 21
 Java 雛形ファイル〔用語解説〕 21
 Java ロギング API〔用語解説〕 21
 JAXB マッピングアノテーション〔用語解説〕 22
 JAX-RS エンジン〔用語解説〕 21
 JAX-RS 機能〔用語解説〕 21
 JAX-WS API〔用語解説〕 21
 JAX-WS エンジン〔用語解説〕 22
 JAX-WS 機能〔用語解説〕 22
 JCA コンテナ〔用語解説〕 22
 JDBC コネクション〔用語解説〕 22
 JMS インタフェース〔用語解説〕 22
 JMS クライアント〔用語解説〕 22
 JMS プロバイダ〔用語解説〕 22
 JNDI 名前空間〔用語解説〕 23
 JNDI ネーミングサービス〔用語解説〕 23
 JP1/AJS〔用語解説〕 23
 JP1/Base〔用語解説〕 23
 JP1/IM〔用語解説〕 23
 JP1/ITRM〔用語解説〕 23
 JP1/PFM〔用語解説〕 23
 JP1/SC/DPM〔用語解説〕 24
 JP1 アカウント管理者〔用語解説〕 24
 JP1 イベント〔用語解説〕 24
 JP1 権限レベル〔用語解説〕 24
 JP1 資源グループ〔用語解説〕 24
 JP1 ジョブ運用管理サーバ〔用語解説〕 24
 JP1 統合運用管理サーバ〔用語解説〕 24
 JP1 ユーザ〔用語解説〕 24
 JP1〔用語解説〕 23
 JPA プロバイダ〔用語解説〕 24
 JPQL〔用語解説〕 24
 JSON-XML 変換〔用語解説〕 25
 JSP コンパイル結果〔用語解説〕 25
 JSP 事前コンパイル〔用語解説〕 25
 JSP タグライブラリ〔用語解説〕 25

JSP デバッグ〔用語解説〕 25

K

Kafka アダプタ〔用語解説〕 25
 Kafka インバウンドアダプタ〔用語解説〕 25
 Kafka インバウンド連携〔用語解説〕 25
 Kafka 受付〔用語解説〕 26

M

Managed Bean〔用語解説〕 26
 Management Server〔用語解説〕 26
 Management アクション〔用語解説〕 26
 Management イベント〔用語解説〕 26
 Manager〔用語解説〕 26
 MBean〔用語解説〕 26
 MDB (DB キュー) アダプタ〔用語解説〕 26
 MDB (WS-R) アダプタ〔用語解説〕 27
 MDB〔用語解説〕 26
 Message Queue アダプタ〔用語解説〕 27
 Message Queue 受付〔用語解説〕 27
 Message-driven Bean〔用語解説〕 27
 MIB オブジェクト〔用語解説〕 27
 MIME ヘッダ〔用語解説〕 27
 mngsvrutil〔用語解説〕 27
 MVC〔用語解説〕 27

N

N:1 リカバリシステム〔用語解説〕 27
 Namespaces in XML〔用語解説〕 28
 NIO HTTP サーバ〔用語解説〕 28

O

Object Access アダプタ〔用語解説〕 28
 Object Transaction Service〔用語解説〕 28
 Oracle RAC〔用語解説〕 28
 ORB ゲートウェイ〔用語解説〕 28
 OTM ゲートウェイ〔用語解説〕 28
 OTS〔用語解説〕 28
 Outbound〔用語解説〕 28

P

Performance Tracer [用語解説] 28
Plain Old Java Object または Plain Ordinary Java Object [用語解説] 28
POJO [用語解説] 29
prefork MPM [用語解説] 29
PRF デーモン [用語解説] 29
PRF トレースサービス [用語解説] 29
PRF トレース出力ライブラリ [用語解説] 29
PRF トレース取得レベル [用語解説] 29
PRF トレースファイル [用語解説] 29
PRF トレース [用語解説] 29

R

RAP サーバ [用語解説] 29
RAP リスナー [用語解説] 29
RealServer [用語解説] 30
Reliable Messaging [用語解説] 30
Remote Procedure Call [用語解説] 30
RMI-IIOP [用語解説] 30
RPC [用語解説] 30
RSA 暗号 [用語解説] 30

S

SecurityManager [用語解説] 30
Service Architect [用語解説] 30
Service Coordinator [用語解説] 30
Service Platform [用語解説] 31
SessionBean アダプタ [用語解説] 31
Session Bean [用語解説] 31
SFTP アダプタ [用語解説] 31
Smart Composer 機能 [用語解説] 31
snapshot ログ [用語解説] 31
SNMP 連携用形式ファイル [用語解説] 31
SOAP1.1/1.2 併用モード [用語解説] 32
SOAP1.1 モード [用語解説] 32
SOAP Fault [用語解説] 32
SOAP with Attachments API for Java [用語解説] 32

SOAP アタッチメント [用語解説] 32
SOAP アダプタ [用語解説] 32
SOAP アプリケーション開発支援機能 [用語解説] 32
SOAP アプリケーション [用語解説] 32
SOAP 受付 [用語解説] 33
SOAP エンジン [用語解説] 33
SOAP エンベロープ [用語解説] 33
SOAP クライアントライブラリ [用語解説] 33
SOAP サービス [用語解説] 33
SOAP 通信基盤 [用語解説] 33
SOAP ヘッド [用語解説] 33
SOAP ボディ [用語解説] 33
SOAP メッセージ [用語解説] 33
SOAP [用語解説] 32
SPP [用語解説] 33
SQL オペレーション定義ファイル [用語解説] 34
Stateful Session Bean [用語解説] 34
Stateless Session Bean [用語解説] 34
Struts [用語解説] 34

T

Timer Service [用語解説] 34
TP1/Client/J [用語解説] 34
TP1/EE [用語解説] 34
TP1/RPC 受付 [用語解説] 34
TP1 アダプタ [用語解説] 35
TP1 インバウンドアダプタ [用語解説] 35
TP1 インバウンド連携機能 [用語解説] 35
TP1 連携システム [用語解説] 35
Transformation API for XML [用語解説] 35
TrAX [用語解説] 35

U

UAP [用語解説] 35
UDDI [用語解説] 35
UML [用語解説] 35
Unified Modeling Language [用語解説] 35
Uniform Resource Identifier [用語解説] 36
Uniform Resource Locator [用語解説] 36

URI のデコード機能〔用語解説〕	36
URI〔用語解説〕	36
URL〔用語解説〕	36
usrconf.properties〔用語解説〕	36

V

V9 互換モード〔用語解説〕	36
Virtage〔用語解説〕	36
VirtualServer〔用語解説〕	36
VMware ESX〔用語解説〕	36

W

W3C〔用語解説〕	37
WAR ファイル〔用語解説〕	37
Web Services Interoperability Organization〔用語解説〕	37
Web Services Reliability〔用語解説〕	37
Web アプリケーションのバージョン設定機能〔用語解説〕	37
Web アプリケーション〔用語解説〕	37
Web 画面〔用語解説〕	37
Web コンテナ〔用語解説〕	37
Web サーバ〔用語解説〕	37
Web サーバ連携〔用語解説〕	38
Web サービスクライアント〔用語解説〕	38
Web サービス実装クラス〔用語解説〕	38
Web サービスセキュリティ機能定義ファイル〔用語解説〕	38
Web サービスセキュリティ機能〔用語解説〕	38
Web サービスセキュリティ方針定義ファイル〔用語解説〕	38
Web サービスセキュリティ〔用語解説〕	38
Web サービス〔用語解説〕	38
Web システム〔用語解説〕	39
Web リソース〔用語解説〕	39
WFA〔用語解説〕	39
Windows Server Failover Cluster〔用語解説〕	39
worker MPM〔用語解説〕	39
Work-Flow Architecture〔用語解説〕	39
World Wide Web Consortium〔用語解説〕	39

WSDL 生成機能〔用語解説〕	40
WSDL〔用語解説〕	40
WS-I〔用語解説〕	39
WS-R〔用語解説〕	39
WS-Security〔用語解説〕	40
WTP コネクタ〔用語解説〕	40
WTP〔用語解説〕	40

X

XML Schema〔用語解説〕	40
XML 暗号アプリケーション〔用語解説〕	40
XML 暗号〔用語解説〕	40
XML 仕様〔用語解説〕	40
XML 署名アプリケーション〔用語解説〕	41
XML 署名〔用語解説〕	40
XML スキーマ〔用語解説〕	41
XML セキュリティ〔用語解説〕	41
XML パーサ〔用語解説〕	41
XML フォーマット定義ファイル〔用語解説〕	41
XML 文書〔用語解説〕	41
XPath〔用語解説〕	41
XSLTC トランスフォーマ〔用語解説〕	42
XSL Transformations〔用語解説〕	42
XSLT トランスフォーマ〔用語解説〕	42
XSLT〔用語解説〕	41
XSL〔用語解説〕	41

あ

アーカイブ形式〔用語解説〕	42
アウトプロセス〔用語解説〕	42
アクション〔用語解説〕	42
アクティビティ〔用語解説〕	42
あて先アドレス〔用語解説〕	42
あて先〔用語解説〕	42
アノテーション〔用語解説〕	43
アプリケーションサーバ〔用語解説〕	43
アプレット〔用語解説〕	43
アンマーシャル〔用語解説〕	43

い

一時クローズ処理〔用語解説〕	43
イベントリスナ〔用語解説〕	43
インスタンス文書〔用語解説〕	43
インプロセス〔用語解説〕	44

う

ウィザード〔用語解説〕	44
受付処理〔用語解説〕	44
運用環境〔用語解説〕	44
運用監視エージェント〔用語解説〕	44
運用管理エージェント〔用語解説〕	44
運用管理コマンド〔用語解説〕	44
運用管理サーバモデル〔用語解説〕	45
運用管理サーバ〔用語解説〕	44
運用管理ドメイン〔用語解説〕	45
運用管理ポータル〔用語解説〕	45
運用管理ポリシー〔用語解説〕	45

え

永続化〔Reliable Messaging〕〔用語解説〕	45
永続化〔サービスプラットフォーム〕〔用語解説〕	45
永続版リソースアダプタ〔用語解説〕	45
エラーページのカスタマイズ〔用語解説〕	45
エンティティ〔用語解説〕	45

お

応答電文〔用語解説〕	45
------------	----

か

開発環境インスタントセットアップ機能〔用語解説〕	46
開発環境〔用語解説〕	46
鍵暗号化鍵〔用語解説〕	46
鍵合意〔用語解説〕	46
カスタム受付フレームワーク〔用語解説〕	46
カスタム受付〔用語解説〕	46
カスタムジョブ〔用語解説〕	46
カスタムバインディング宣言〔用語解説〕	46
カスタムファンクション〔用語解説〕	47

カスタムログインモジュール〔用語解説〕	47
仮想化環境〔用語解説〕	47
仮想化ソフトウェア〔用語解説〕	47
仮想サーバ（仮想化ソフトウェア）〔用語解説〕	47
仮想サーバ（負荷分散）〔用語解説〕	47
仮想サーバ識別子〔用語解説〕	47
仮想サーバマネージャ管理者アカウント〔用語解説〕	47
仮想サーバマネージャ〔用語解説〕	47
カタログ機能〔用語解説〕	47
カタログファイル〔用語解説〕	48
稼働情報収集機能〔用語解説〕	48
環境設定ファイル〔用語解説〕	48
監査証跡〔用語解説〕	48
監査ログ〔用語解説〕	48
監視ツリー〔用語解説〕	48
管理 LAN〔用語解説〕	48
管理対象オブジェクト〔用語解説〕	49
管理ユニット〔用語解説〕	49
管理用サーバ〔用語解説〕	49

き

キーストア〔用語解説〕	49
機能レイヤ〔用語解説〕	49
基本アクティビティ〔用語解説〕	49
キャッシュテーブル〔用語解説〕	49
キャッシュファイル〔用語解説〕	49
キュー間転送〔用語解説〕	49
キュー作成ファイル〔用語解説〕	50
キュー定義ファイル〔用語解説〕	50
キュー定義文〔用語解説〕	50
キュー〔用語解説〕	49
共通鍵〔用語解説〕	50
共通定義ファイル〔用語解説〕	50
共通フォルダ〔用語解説〕	50
業務 LAN〔用語解説〕	50
業務指向ツリー〔用語解説〕	50
業務処理プログラム〔用語解説〕	50
業務用 IP アドレス〔用語解説〕	51
共有スレッド数〔用語解説〕	51

く

- 組み込みデータベース〔用語解説〕 51
- クライアントアプリケーション情報〔用語解説〕 51
- クライアント定義ファイル〔用語解説〕 51
- クライアント認証〔用語解説〕 51
- クラスタソフトウェア〔用語解説〕 51
- クラスタ〔用語解説〕 51
- グループ〔用語解説〕 52
- グローバル CORBA ネーミングサービス〔用語解説〕 52
- グローバルセッション ID〔用語解説〕 52
- グローバルセッション情報〔用語解説〕 52
- グローバルセッション〔用語解説〕 52
- グローバルトランザクション〔用語解説〕 52

け

- 計画系切り替え〔用語解説〕 52
- 計画停止〔用語解説〕 53
- 系切り替え〔用語解説〕 53
- 系障害〔用語解説〕 53
- 系〔用語解説〕 52
- ゲートウェイ指定機能〔用語解説〕 53
- 検証処理〔用語解説〕 53
- 現用系〔用語解説〕 53

こ

- 公開鍵〔用語解説〕 53
- 公開〔サービスプラットフォーム〕〔用語解説〕 53
- 構造アクティビティ〔用語解説〕 53
- コネクションスイーパー〔用語解説〕 53
- コネクションプーリング〔用語解説〕 54
- コマンドアダプタ〔用語解説〕 54
- コマンドライン Java アプリケーション〔用語解説〕 54
- コミットオプション〔用語解説〕 54
- コンテキストパス〔用語解説〕 54
- コンテキスト〔用語解説〕 54
- コンテキストルート〔用語解説〕 54
- コンテナ拡張ライブラリ〔用語解説〕 54

さ

- サーバ仮想化技術〔用語解説〕 55
- サーバ間転送〔用語解説〕 55
- サーバ管理コマンド〔用語解説〕 55
- サーバ起動・停止フック機能〔用語解説〕 55
- サーバ指向ツリー〔用語解説〕 55
- サーバ通信エージェント〔用語解説〕 55
- サーバ認証〔用語解説〕 55
- サービス〔SOA〕〔用語解説〕 55
- サービス〔Windows〕〔用語解説〕 55
- サービスアダプタ〔用語解説〕 56
- サービス型ソフトウェア〔用語解説〕 56
- サービス部品電文〔用語解説〕 56
- サービス部品〔用語解説〕 56
- サービス閉塞〔用語解説〕 56
- サービスユニット〔用語解説〕 56
- サービスリクエスタ〔用語解説〕 56
- サーブレットおよび JSP のサービスメソッド〔用語解説〕 56
- サーブレットフィルタ〔用語解説〕 57
- サイジング〔用語解説〕 57
- 作業フォルダ〔用語解説〕 57

し

- 識別子〔用語解説〕 57
- システム構成定義〔用語解説〕 57
- システム構築者アカウント〔用語解説〕 57
- 実行環境〔用語解説〕 57
- 実行系〔用語解説〕 57
- 実行待ちキュー〔用語解説〕 58
- 実行履歴情報テーブル〔用語解説〕 58
- 実行履歴〔用語解説〕 58
- 実パラメタ〔用語解説〕 58
- 自動系切り替え〔用語解説〕 58
- 自動生成クラス〔用語解説〕 58
- 条件分岐〔用語解説〕 58
- 常設コネクション〔用語解説〕 58
- 証明書〔用語解説〕 58
- ジョブネット〔用語解説〕 59

ジョブ〔用語解説〕 58
シングルサインオン情報リポジトリ〔用語解説〕 59
シングルサインオン〔用語解説〕 59
シングルサインオンライブラリ〔用語解説〕 59

す

推奨モード〔用語解説〕 59
スキーマキャッシュ〔用語解説〕 59
スキーマコンパイラ〔用語解説〕 59
スキーマジェネレータ〔用語解説〕 59
スキーマ定義ファイル〔用語解説〕 59
スキーマ文書〔用語解説〕 59
スケールアウト〔用語解説〕 60
スケールアップ〔用語解説〕 60
スケールイン〔用語解説〕 60
スケジュールキュー〔用語解説〕 60
スケジュール駆動受付〔用語解説〕 60
スケジュールポリシー〔用語解説〕 60
スマートエージェント〔用語解説〕 60
スレッドの非同期並行処理〔用語解説〕 60

せ

正規化〔用語解説〕 61
静的コンテンツキャッシュ機能〔用語解説〕 61
静的コンテンツ〔用語解説〕 61
性能解析トレースファイル〔用語解説〕 61
性能解析トレース〔用語解説〕 61
セキュリティアイデンティティ〔用語解説〕 61
セキュリティトークン要素〔用語解説〕 61
セキュリティヘッダ〔用語解説〕 61
セキュリティ要素〔用語解説〕 61
セッションフェイルオーバー機能〔用語解説〕 62
セッション〔用語解説〕 61
セットアップウィザード〔用語解説〕 62
セントラルコンソール〔用語解説〕 62
セントラルスコープ〔用語解説〕 62
占有スレッド数〔用語解説〕 62

そ

相関セット〔用語解説〕 62
相互系切り替えシステム〔用語解説〕 62
相互スタンバイ〔用語解説〕 63
送信〔用語解説〕 63

た

待機系〔用語解説〕 63
ダイジェスト値〔用語解説〕 63
楕円曲線暗号〔用語解説〕 63

ち

抽象パラメタ〔用語解説〕 63
直列化〔用語解説〕 63

て

ディスクキャッシュ〔用語解説〕 63
データ暗号化鍵〔用語解説〕 63
データソース〔用語解説〕 63
データ変換基盤〔用語解説〕 64
データ変換定義〔用語解説〕 64
データ変換〔用語解説〕 64
データ要素〔用語解説〕 64
デプロイ定義ファイル〔用語解説〕 64
デプロイ〔用語解説〕 64
展開ディレクトリ形式〔用語解説〕 64
転送先キュー〔用語解説〕 64
添付ファイル付き SOAP メッセージ〔用語解説〕 64
電文フォーマット定義ファイル〔用語解説〕 65
電文フォーマット〔用語解説〕 64

と

同期点処理〔用語解説〕 65
同期点電文〔用語解説〕 65
統合コンソール〔用語解説〕 65
統合スコープ〔用語解説〕 65
統合ネーミングスケジューラサーバモデル〔用語解説〕 65
統合ネーミングスケジューラサーバ〔用語解説〕 65

統合ユーザ管理のコンフィグレーションファイル〔用語解説〕 66
統合ユーザ管理フレームワーク〔用語解説〕 66
統合ユーザ管理〔用語解説〕 65
動作定義ファイル〔用語解説〕 66
動的コンテンツ〔用語解説〕 66
トラストストア〔用語解説〕 66
トランザクショングローバル識別子〔用語解説〕 66
トランザクションサービス〔用語解説〕 66
トランザクション識別子〔用語解説〕 66
トランザクションマネージャ〔用語解説〕 66
トランスレット〔用語解説〕 66
トレース共通ライブラリ〔用語解説〕 67
トレース取得ポイント〔用語解説〕 67

な

名前空間〔用語解説〕 67

に

認証局〔用語解説〕 67

ね

ネーミング切り替え〔用語解説〕 67
ネーミングサービス〔用語解説〕 67

の

ノード〔用語解説〕 67

は

パーセントエンコード〔用語解説〕 67
バイナリフォーマット定義ファイル〔用語解説〕 68
ハイパーバイザ管理ソフトウェア〔用語解説〕 68
ハイパーバイザ〔用語解説〕 68
配備定義〔用語解説〕 68
配備〔用語解説〕 68
バインディング〔用語解説〕 68
バインド先アドレス設定機能〔用語解説〕 68
パッケージング〔用語解説〕 68
バッチアプリケーション〔用語解説〕 68
バッチサーバ〔用語解説〕 69

パフォーマンストレーサ〔用語解説〕 69
ハンドラフレームワーク〔用語解説〕 69
ハンドラ〔用語解説〕 69
汎用カスタムアダプタ〔用語解説〕 69

ひ

非永続化〔Reliable Messaging〕〔用語解説〕 69
非永続版リソースアダプタ〔Reliable Messaging〕〔用語解説〕 69
非公開〔サービスプラットフォーム〕〔用語解説〕 69
ビジネスインタフェース〔用語解説〕 70
ビジネスプロセス基盤〔用語解説〕 70
ビジネスプロセス〔用語解説〕 70
非常設コネクション〔用語解説〕 70
非保護区〔用語解説〕 70
秘密鍵〔用語解説〕 70
標準受付（MDB（DB キュー））〔用語解説〕 70
標準受付（MDB（WS-R））〔用語解説〕 71
標準受付（SessionBean）〔用語解説〕 71
標準受付（Web サービス）〔用語解説〕 71
標準受付〔用語解説〕 70
標準電文フォーマット〔用語解説〕 71
標準電文〔用語解説〕 71
標準ログインモジュール〔用語解説〕 71

ふ

ファイルアダプタ〔用語解説〕 71
ファイルイベント受付〔用語解説〕 72
ファイルイベント連携〔用語解説〕 72
ファイル操作アダプタ〔用語解説〕 72
ファンクション〔用語解説〕 72
負荷分散機の仮想サーバ〔用語解説〕 72
負荷分散機〔用語解説〕 72
物理コネクション〔用語解説〕 72
物理ティア〔用語解説〕 72
物理マシン〔用語解説〕 72
フレームワーク〔用語解説〕 73
プロセスインスタンス〔用語解説〕 73
プロセス別の定義ファイル〔用語解説〕 73

フロント EJB [用語解説] 73

へ

別名 [用語解説] 73

変換ファンクション定義ファイル [用語解説] 73

変換ファンクション [用語解説] 73

ほ

保護区 [用語解説] 73

ホスト単位管理モデル [用語解説] 73

ホスト単位管理モデルを対象とした系切り替えシステム [用語解説] 73

ま

マーシャル [用語解説] 74

マッピング [XML Processor] [用語解説] 74

マッピング [サービスプラットフォーム] [用語解説] 74

み

未決着トランザクション [用語解説] 74

め

明示管理ヒープ機能 [用語解説] 74

メールアダプタ [用語解説] 74

メソッドキャンセル機能 [用語解説] 74

メソッドタイムアウト機能 [用語解説] 74

メソッドトレース [用語解説] 74

メッセージインフロー [用語解説] 75

メッセージの受信 [用語解説] 75

メッセージの転送 [用語解説] 75

メッセージ [用語解説] 74

メッセージング基盤 [用語解説] 75

メッセージング [用語解説] 75

メモリキャッシュ [用語解説] 75

面数 [用語解説] 75

メンバリソースアダプタ [用語解説] 75

面番号 [用語解説] 75

も

文字コード変換 UOC [用語解説] 76

ゆ

ユーザ拡張性能解析トレース [用語解説] 76

ユーザ指定名前空間機能 [用語解説] 76

ユーザ情報 [用語解説] 76

ユーザ情報リポジトリ [用語解説] 76

ユーザスレッド [用語解説] 76

ユーザ定義受付 [用語解説] 76

ユーザ定義受付ランタイム定義ファイル [用語解説] 76

ユーザ電文 [用語解説] 76

ユーザ認証ライブラリ [用語解説] 77

ユーザプロパティファイル [用語解説] 77

ユーザマッピング [用語解説] 77

ユーザログ [用語解説] 77

よ

要求電文 [用語解説] 77

要求リソース [用語解説] 77

予備系 [用語解説] 77

ら

ライトトランザクション [用語解説] 77

ライブマイグレーション [用語解説] 77

ライブラリ JAR [用語解説] 78

ラウンドロビン検索 [用語解説] 78

ラウンドロビンポリシー [用語解説] 78

り

リカバリ専用サーバ [用語解説] 78

リクエストサービス [用語解説] 78

リクエスト受付 [用語解説] 78

リクエスト処理スレッド [用語解説] 78

リクエストトレース [用語解説] 78

リクエストのスケジューリング [用語解説] 79

リソースアダプタ [用語解説] 79

リソースクラス [用語解説] 79

リソースマネージャ [用語解説] 79

リデプロイ機能〔用語解説〕	79
リバースプロキシサーバ〔用語解説〕	79
リポジトリ〔用語解説〕	79
リモートインタフェース〔用語解説〕	80
リロード機能〔用語解説〕	80

る

ルートアプリケーション情報〔用語解説〕	80
ルートコンテキスト〔用語解説〕	80
ルートリソースアダプタ〔用語解説〕	80

れ

レルム〔用語解説〕	80
-----------	----

ろ

ローカルインタフェース〔用語解説〕	80
ローカルトランザクション〔用語解説〕	80
ロール〔用語解説〕	80
ロガー〔用語解説〕	81
論理コネクション〔用語解説〕	81
論理サーバ〔用語解説〕	81
論理ネーミングサービス〔用語解説〕	81
論理ユーザサーバ〔用語解説〕	81